

Oracle® iPlanet Web Server

リリースノート

Release 6.1 SP15

E23160-02

2011 年 12 月

Oracle iPlanet Web Server リリースノート , Release 6.1 SP15

E23160-02

Copyright © 2001, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Primary Author: Srinivas Sudhindra

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、オラクル社またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	vii
ドキュメントのアクセシビリティ	vii
表記規則	viii
1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 リリースノート	
1.1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 の新機能および拡張機能	1-1
1.2 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 において解決済みの問題	1-2
1.3 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 用の製品パッチ	1-2
1.4 サポートされるプラットフォーム	1-2
1.4.1 必要なパッチ	1-4
1.5 サポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコル	1-5
1.5.1 Active Server Pages のサポート	1-6
1.5.2 ブラウザのサポート	1-6
1.5.3 HTTP PUT および DELETE の無効化	1-6
1.5.4 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート	1-7
1.5.5 強化されたセキュリティ	1-7
1.5.6 HTTP 圧縮のサポート	1-7
1.5.7 J2SE および Java SE のサポート	1-8
1.5.8 Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート	1-8
1.5.9 JDBC のサポート	1-8
1.5.10 JNDI のサポート	1-9
1.5.11 ローカライズバージョンのサポート	1-9
1.5.12 NSAPI フィルタのサポート	1-9
1.5.13 NSS および NSPR のサポート	1-9
1.5.14 PHP 互換性	1-9
1.5.15 検索エンジンのサポート	1-10
1.5.16 Solaris PKCS #11 のサポート	1-10
1.5.17 Sun Java Studio Enterprise Support	1-11
1.5.18 64 ビットのサポート	1-12
1.5.19 WebDAV のサポート	1-12
1.6 Web Server 6.1 で推奨されなくなった / 変更された公開インタフェース	1-13
1.7 インストール、アップグレード、移行に関する注意事項	1-13
1.7.1 インストールの注意事項	1-13

1.7.2	アップグレード	1-13
1.7.3	移行	1-14
1.8	問題の報告とフィードバックの方法.....	1-14

2 既知の問題点

2.1	Oracle iPlanet Web Server 6.1 の一般的な問題.....	2-1
2.2	Oracle iPlanet Web Server 6.1 の管理の問題	2-3
2.3	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のコアの問題	2-7
2.4	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のマニュアルの問題	2-7
2.5	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のインストールの問題	2-8
2.6	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のローカリゼーションの問題.....	2-9
2.7	Oracle iPlanet Web Server 6.1 の移行の問題	2-10
2.8	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のサンプルの問題.....	2-12
2.9	Oracle iPlanet Web Server 6.1 の検索の問題	2-13
2.10	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のセキュリティーの問題	2-13
2.11	Oracle iPlanet Web Server 6.1 のツールの問題.....	2-14
2.12	Oracle iPlanet Web Server 6.1 の Web コンテナの問題.....	2-15
2.13	Oracle iPlanet Web Server 6.1 の WebDAV の問題.....	2-15

3 製品マニュアル

3.1	6.1 SP12 のマニュアルに対する修正と更新.....	3-2
3.1.1	HTTP ヘッダー名での大文字と小文字の区別に関する新しい情報	3-3
3.1.2	「Setting Access Rights」の無関係な情報	3-3
3.1.3	net_read() の戻り値に関する誤った情報.....	3-3
3.1.4	PathCheck フロー制御に関する誤った情報.....	3-3
3.1.5	schedulerd 制御デーモンの停止に関する誤った指示	3-4
3.2	ドキュメント、サポート、およびトレーニング.....	3-4

A Oracle iPlanet Web Server 6.1 の過去のリリースの機能と拡張機能

A.1	Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP14 の機能および拡張機能.....	A-1
A.1.1	JDK が 1.6.0_24 に更新.....	A-1
A.1.2	NSS が 3.12.8 に更新	A-1
A.2	Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP13 の機能および拡張機能.....	A-1
A.2.1	NSS および NSPR のバージョン更新による SSL/TLS の脆弱性の解決.....	A-2
A.2.2	HTTP 応答分割および XSS の脆弱性の解決	A-2
A.2.3	JDK のバージョン更新	A-2
A.2.4	CSR での 2048 ビットキーサイズのサポート	A-2
A.2.5	CSR の暗号化モジュールがデフォルトで「内部」に設定される	A-2
A.2.6	管理 GUI の Verisign 証明書オプションの削除	A-2
A.2.7	マニュアルの修正と更新	A-3
A.3	Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP12 の機能および拡張機能.....	A-3

B Oracle iPlanet Web Server 6.1 の以前のリリースで解決済みの問題

B.1	6.1 SP14 において解決済みの問題	B-1
-----	----------------------------	-----

B.2	6.1 SP13 において解決済みの問題	B-2
B.3	6.1 SP12 において解決済みの問題	B-2
B.4	6.1 SP11 において解決済みの問題	B-3
B.5	6.1 SP10 において解決済みの問題	B-4
B.6	6.1 SP9 において解決済みの問題	B-4
B.7	6.1 SP8 において解決済みの問題	B-6
B.8	6.1 SP7 において解決済みの問題	B-7
B.9	6.1 SP6 において解決済みの問題	B-9
B.10	6.1 SP5 において解決済みの問題	B-13
B.11	6.1 SP4 において解決済みの問題	B-15
B.12	6.1 SP3 において解決済みの問題	B-16
B.13	6.1 SP2 において解決済みの問題	B-18
B.14	6.1 SP1 において解決済みの問題	B-26
B.15	6.1 において解決済みの問題	B-27
B.16	6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題	B-28

はじめに

『Oracle iPlanet Web Server リリースノート』へようこそ。

Oracle iPlanet Web Server (このドキュメントでは **Web Server** と呼ばれることがあります) は、業界標準に準拠して構築されたマルチプロセス、マルチスレッドの、セキュリティーで保護された **Web** サーバーです。この製品は、どのような規模の企業にも、高い性能、信頼性、スケーラビリティ、および管理性を提供します。

このドキュメントの情報は、次のように構成されています。

- **第 1 章「Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 リリースノート」**

この章では、**Web Server** ドキュメントの概要を記載しています。また、ドキュメント内で修正や改善した部分および解決した問題について説明します。さらに、ドキュメント、サポート、およびトレーニングリソースの利用方法に関する情報も記載しています。

- **第 2 章「既知の問題点」**

この章では、**Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15** がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。

- **第 3 章「製品マニュアル」**

この章では、**Web Server** ドキュメントの概要を記載しています。また、ドキュメントの修正、改善、および解決された問題について説明します。さらに、ドキュメント、サポート、およびトレーニングリソースの利用方法に関する情報も記載しています。

- **付録 A「Oracle iPlanet Web Server 6.1 の過去のリリースの機能と拡張機能」**

この付録では、この製品の過去のリリースに関する機能と強化された点について説明します。

- **付録 B「Oracle iPlanet Web Server 6.1 の以前のリリースで解決済みの問題」**

この付録では、この製品の過去のリリースで解決された問題の一覧を記載します。

ドキュメントのアクセシビリティ

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについては、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> の Oracle アクセシビリティプログラム Web サイトにアクセスしてください。

Oracle Support の利用

Oracle の顧客は、My Oracle Support によって電子的なサポートを利用できます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> にアクセスしてください。または、耳が不自由な場合は

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> にアクセスしてください。

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字体	太字体は、操作に関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェース要素か、テキストまたは用語集で定義された用語を示します。
斜体	斜体は、特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース体	モノスペース体は、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 リリースノート

この章では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 の機能、拡張機能、および解決された問題に関する情報を記載しています。また、最新リリースでサポートされているプラットフォーム、ソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコルに関する情報も記載されています。その他のドキュメントの変更点については、[第 3 章「製品マニュアル」](#)を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- [Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 の新機能および拡張機能](#)
- [Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 において解決済みの問題](#)
- [Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 用の製品パッチ](#)
- [サポートされるプラットフォーム](#)
- [サポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコル](#)
- [Web Server 6.1 で推奨されなくなった / 変更された公開インタフェース](#)
- [インストール、アップグレード、移行に関する注意事項](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)

1.1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 の新機能および拡張機能

次に、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 の新機能と拡張機能を示します。

- このリリースでは、`maxrequestperconnection` と呼ばれる新しいプロパティが導入されました。このプロパティを使用すると、キープアライブ接続の要求の数を少なくして BEAST 攻撃を除去するのに役立ちます。

`maxrequestperconnection` を設定するには、次の例を使用してください。

```
<LS id="ls1" port="1892" servername="pegasus.india.sun.com"
maxrequestperconnection="9" defaultvs="https-test"/>
```

- Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 ではネットワークセキュリティーサービス (NSS) 3.13.1.0 がサポートされます。

1.2 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 において解決済みの問題

次の表では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 において解決された問題を一覧表示します。

表 1-1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 において解決済みの問題

問題 ID	説明
13352262	キーブアライブを制限するためのサーバー側の修正。Beast CVE-2011-3389、TLS 1.0 脆弱性
13352337	キーブアライブ要求を制限して、Beast CVE-2011-3389、TLS 1.0 脆弱性を解決するオプションを追加する
13509910	Doc: 新しく追加された LS プロパティ <code>maxrequestperconnection</code> についてドキュメント化する

1.3 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 用の製品パッチ

次の Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 のパッチは、My Oracle Support サイト (<http://support.oracle.com>) で入手可能です。

プラットフォーム	パッチ ID
AIX (32 ビット)	145536-03
Linux x86	145533-03
Solaris SPARC (32 ビット)	145531-03
Solaris SPARC (64 ビット)	145532-03
Solaris x86 (32 ビット)	145534-03
Windows (32 ビット)	145535-03

1.4 サポートされるプラットフォーム

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 は Solaris、AIX、Linux、および Windows にインストールできます。インストール要件については、第 1.4.1 節「必要なパッチ」および『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Installation and Migration Guide』を参照してください。

表 1-2 に対応プラットフォームについてまとめます。

表 1-2 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 でサポートされるプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	推奨メモリー	推奨ディスク容量
IBM	PowerPC	AIX * 5.2、5.3、6.1	64M バイト	192M バイト	256M バイト

表 1-2 (続き) Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 でサポートされるプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	推奨メモリー	推奨ディスク容量
Microsoft	x86 (32 ビット)	Windows 2000 Professional Windows 2000 Server Windows 2000 Advanced Server SP4 以降 Windows XP Professional SP2 以降 Windows Server 2003 Enterprise Edition SP1 以降 Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 以降	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Oracle	SPARC**	Solaris 8、9、10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Oracle	SPARC** (64 ビット)	Solaris 10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Oracle	SPARC**、x86 (32 ビット)	Trusted Solaris 8 (プロフェッショナルサービス契約)**	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Oracle	x86 (32 ビット)	Solaris 9、10	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Red Hat	x86 (32 ビット)	Red Hat Linux Advanced Server 2.1 <ul style="list-style-type: none"> ■ Linux kernel 2.4.9-e.3smp ■ glibc-2.2.4-26 ■ ncurses-4-5.0-5 libncurses5.so から libncurses4.so に対してシンボリックリンクを作成することもできますが、ncurses4-5.0-5.i386.rpm のインストールが推奨されています。	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Red Hat	x86 (32 ビット)	Red Hat Enterprise Linux 3.0 Update 1 <ul style="list-style-type: none"> ■ uname -r: 2.4.21-9.EL smp 	64M バイト	192M バイト	256M バイト

表 1-2 (続き) Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 でサポートされるプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャー	オペレーティングシステム	必要最小限のメモリー	推奨メモリー	推奨ディスク容量
Red Hat	x86 (32 ビット)	Red Hat Advanced Server 4.0	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Novell	x86 (32 ビット)	SUSE Linux Enterprise 9.0	64M バイト	192M バイト	256M バイト

* AIX 5.1 はサポートされなくなりました。Web Server 6.1 SP5 で非推奨になりました。

** iPlanet Web Server 6.0 では、古い SPARC CPU はサポートされません。Web Server 6.1 では引き続き UltraSPARC アーキテクチャーがサポートされます。

*** Oracle プロフェッショナルサービスをお勧めします。

パフォーマンスとサポートを向上させるには、使用している Web サーバーをサポートされるオペレーティングシステムへ移行してください。

注: Solaris 10 のインストールでは、Web Server 6.1 SP5 以降で大域ゾーンとともに疎ルートゾーンおよび完全ルートゾーンがサポートされます。

1.4.1 必要なパッチ

適用可能な最新のパッチでオペレーティングシステムを更新します。

- [AIX 5.2 のパッチ](#)
- [AIX 5.3 のパッチ](#)
- [AIX 5.3 Technology Level 6 SP5 のパッチ](#)
- [AIX 5.3 Technology Level 7 SP2 のパッチ](#)
- [Solaris 8 のパッチ \(SPARC\)](#)
- [Solaris 9 のパッチ \(SPARC および x86\)](#)

1.4.1.1 AIX 5.2 のパッチ

- 基本レベルの OS - AIX 5.2
- メンテナンスレベルのパッチ 5200-07 以降
- JDK APAR - IY46668 は必須

Web サーバー上に Java Web アプリケーションが配置されている場合、IBM JDK のマニュアルに従って、サーバーを起動する前に次のように環境変数を設定してください。

- `export AIXTHREAD_SCOPE=S`
- `export AIXTHREAD_MUTEX_DEBUG=OFF`
- `export AIXTHREAD_RWLOCK_DEBUG=OFF`
- `export AIXTHREAD_COND_DEBUG=OFF`

上記のコードは、Web サーバーの起動スクリプトに直接追加できます。

1.4.1.2 AIX 5.3 のパッチ

- 基本レベルの OS - AIX 5.3

- メンテナンスレベルのパッチ 5300-03 以降

1.4.1.3 AIX 5.3 Technology Level 6 SP5 のパッチ

AIX Version 5.3 から AIX Version 5.3 Technology Level 6 SP5 にアップグレードするときは、次のパッチを適用して、管理サーバーまたはインスタンスサーバーの起動時に制御がコマンド行プロンプトに戻るようになっています。

```
bos.mp/bos.mp64 at 5.3.0.66
```

1.4.1.4 AIX 5.3 Technology Level 7 SP2 のパッチ

AIX Version 5.3 から AIX Version 5.3 Technology Level 7 SP2 にアップグレードするときは、次のパッチを適用して、管理サーバーまたはインスタンスサーバーの起動時に制御がコマンド行プロンプトに戻るようになっています。

```
bos.mp/bos.mp64 at 5.3.7.2
```

1.4.1.5 Solaris 8 のパッチ (SPARC)

- Solaris Release 8 2/02
- Oracle 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ

1.4.1.6 Solaris 9 のパッチ (SPARC および x86)

- Solaris Release 9 8/03 以降
- Oracle 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ

1.5 サポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコル

次の節では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 でサポートされているソフトウェア、テクノロジー、およびプロトコルの一部について説明します。

- [Active Server Pages](#) のサポート
- [ブラウザ](#) のサポート
- [HTTP PUT](#) および [DELETE](#) の無効化
- 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート
- 強化されたセキュリティー
- [HTTP 圧縮](#) のサポート
- [J2SE](#) および [Java SE](#) のサポート
- [Java Servlet 2.3](#) および [JavaServer Pages \(JSP\) 1.2](#) のサポート
- [JDBC](#) のサポート
- [JNDI](#) のサポート
- [ローカライズバージョン](#) のサポート
- [NSAPI フィルタ](#) のサポート
- [NSS](#) および [NSPR](#) のサポート
- [PHP 互換性](#)
- [検索エンジン](#) のサポート
- [Solaris PKCS #11](#) のサポート

- [Sun Java Studio Enterprise Support](#)
- [64 ビットのサポート](#)
- [WebDAV のサポート](#)

1.5.1 Active Server Pages のサポート

Web Server 6.1 は、Active Server Pages Version 4.0.1 (以前の Sun ChiliSoft ASP) および Version 4.0.2 を通じて Active Server Pages (ASP) 仕様をサポートします。Active Server Pages ソフトウェアは、Sun Java System Web Server にセキュリティー保護された企業レベルの ASP エンジンを追加します。Web Server 6.1 は、次のプラットフォームで Sun Java System Active Server Pages 4.0.2 および 4.0.3 をサポートします。

- Solaris (SPARC) Version 8、9、および 10
- Solaris (x86) 9、10
- Windows 2000 Professional Edition、Server、Advanced Server、XP および 2003 Enterprise Edition
- AIX 5.2、5.3
- RedHat Enterprise Linux 3.0、4.0

Web Server にインストールする場合は、Sun Java System Active Server Pages のライセンスは必要ありません。Active Server Pages インストーラは、Sun Java System Web Server メディアキットを購入した場合は付属 CD に含まれています。

<http://www.sun.com/download/products.xml?id=420a8e72> からダウンロードすることもできます。

注:

- Active Server Pages プラグインを使用する場合は、Sun Java System Web Server 6.1 のインストール後にさらに約 50M バイトのディスク容量が必要になります。
- インストールを始める前に、root としてログインしていることを確認してください。

1.5.2 ブラウザのサポート

次のブラウザは、Web Server 6.1 管理グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) でサポートされています。

Mozilla 1.7 以降

Firefox 1.0.4 または 1.5 以降

NetscapeNavigator 7.0 以降

Microsoft Internet Explorer 6 および 7

1.5.3 HTTP PUT および DELETE の無効化

この節では、PUT および DELETE オプションを無効にする方法について説明します。

1.5.3.1 HTTP PUT および DELETE の無効化

1. 管理コンソールにアクセスします。
2. サーバーのリストからサーバーを選択して、「**Manage**」ボタンをクリックします。
3. 「**Preferences**」タブ内の「**Restrict Access**」リンクをクリックします。
4. ドロップダウンリストから「**Edit**」オプションを選択して、「**OK**」ボタンをクリックします。

5. 「method A」テーブルから「**The entire server**」オプションを選択して、「Edit Access Control」ボタンをクリックします。
6. 「Rights」列のアクセス権限 (r-x--i) リンクをクリックします。
画面下部に「Access Rights」テーブルが表示されます。
7. 「WRITE」および「DELETE」オプションの選択を解除します。
8. 「Update」ボタンをクリックします。
9. 「Submit」ボタンをクリックします。
10. 画面右側の「Apply」リンクをクリックしてから「Apply Changes」ボタンをクリックして、変更を永続的にします。
11. 変更内容を有効にするために、サーバーを再起動します。

1.5.4 強化されたハードウェアアクセラレータ暗号化のサポート

Web Server 6.1 は、Web Server での SSL のパフォーマンスを向上させる Sun Crypto Accelerator 500、1000、4000 および 6000 のハードウェアアクセラレータボードをサポートしています。

注： Web サーバーの使用時に Sun Crypto Accelerator カードを初期化します。Sun Crypto Accelerator の詳細については、次の場所にある「Sun Crypto Accelerator 6000 Board Version 1.1 User's Guide」を参照してください。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19321-01/index.html>

1.5.5 強化されたセキュリティー

Web Server 6.1 では、Java セキュリティーマネージャーによってフラットファイル認証を使用し、アクセスを制限できます。セキュリティーマネージャー機能を有効にすると、J2EE Web アプリケーションに与える権限を制限することにより、セキュリティーを向上させることができます。セキュリティーマネージャーは、製品のインストール時にはデフォルトで無効になっています。セキュリティーマネージャーを有効にするには、server.xml ファイル内のエントリのコメントを外します。

```
<JVMOPTIONS>-Djava.security.manager</JVMOPTIONS>
```

```
<JVMOPTIONS>-Djava.security.policy=instance-dir/config/server.policy</JVMOPTIONS>
```

ここで、*instance-dir* は、このサーバーインスタンスのインストールディレクトリへのパスです。

server.xml の詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

1.5.6 HTTP 圧縮のサポート

Web Server 6.1 は、コンテンツ圧縮をサポートしています。この機能により、コンテンツ量に合わせてハードウェアコストを増加させることなく、クライアントへの配信スピードを速め、より多くのコンテンツを提供できるようになります。コンテンツ圧縮により、コンテンツのダウンロード時間が減少します。これは、ダイヤルアップ接続やトラフィックの多い接続を使用するユーザーにとって非常に重要な利点です。

詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Guide』を参照してください。

1.5.7 J2SE および Java SE のサポート

Oracle iPlanet Web Server 6.1 では、Java SE 6 および J2SE 5 がサポートされています。J2SE 1.4 はサービス終了 (End Of Service Life、EOSL) となったため、サポートされていません。

Windows、Solaris、およびすべての Linux プラットフォーム向けの Web Server 6.1 には、Java SE 6 が含まれています。これらのプラットフォームに Web Server 6.1 をインストールすると、JDK が自動的にアップグレードまたはインストールされます。HP-UX および AIX の場合は、Web Server をインストールする前に、JDK をダウンロードしてインストールする必要があります。

Oracle iPlanet Web Server 6.1 は、次の JDK バージョンについて実証済みです。

プラットフォーム	JDK 1.6 バージョン	JDK 1.5 バージョン
Hewlett-Packard HP-UX	1.6.0.01-jinteg_06_jun_2008_13_24-b00	1.5.0.16
IBM AIX	1.6.0 pap3260sr1-20080416_01(SR1)	1.5.0 pap32dev-20080315 (SR7)
Microsoft Windows	1.6.0_24	1.5.0.22
Oracle Solaris	1.6.0_24	1.5.0.22
Red Hat Linux	1.6.0_24	1.5.0.22
Sun Linux	1.6.0_24	1.5.0.22
SUSE Linux	1.6.0_24	1.5.0.22

注： 64 ビット Solaris SPARC では 64 ビット用 JDK、ほかのすべてのプラットフォームでは 32 ビット用 JDK が必要です。

1.5.8 Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 のサポート

Web Server 6.1 では、Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) 準拠の Java Servlet 2.3 および JavaServer Pages (JSP) 1.2 技術仕様が実装されています。J2EE 準拠の Web コンテナにより、Java テクノロジー標準準拠の Web アプリケーションの設計と配備に必要な柔軟性と信頼性が提供されます。Web アプリケーションは、仮想サーバーごとに配備できます。

これらのテクノロジーについては、次のリソースを参照してください。

- Java Servlet:
<http://www.oracle.com/technetwork/java/index-jsp-135475.html>
- JavaServer Pages:
<http://www.oracle.com/technetwork/java/javaee/jsp/index.html>

サーブレットおよび JavaServer Pages の開発については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

1.5.9 JDBC のサポート

Web Server 6.1 には、JDBC (Java DataBase Connectivity) ソフトウェアが含まれ、業界標準の JDBC ドライバからカスタマイズされた JDBC ドライバまで幅広くサポートしています。

1.5.10 JNDI のサポート

Web Server 6.1 は、JNDI (Java Naming and Directory Interface) API をサポートします。JNDI により、多種多様なエンタープライズのネーミングサービスおよびディレクトリサービスへのシームレスな接続が可能になります。

1.5.11 ローカライズバージョンのサポート

Web Server 6.1x のローカライズバージョンを使用している場合は、既存のサーバーに Web Server 6.1 SP13 をインストールすることで、既存のローカライゼーション機能を利用できます。Web Server 6.1 SP13 の各リリースは、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、および韓国語で利用できます。

1.5.12 NSAPI フィルタのサポート

Web Server 6.1 では、NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) フィルタをサポートするために、NSAPI が拡張されています。

NSAPI フィルタの利用により、HTTP 要求および応答ストリームをカスタム処理できます。この処理により、ある機能で、別の機能に提示されたコンテンツ、または別の機能によって生成されたコンテンツを遮断して、変更することが可能になります。たとえば、あるプラグインで、別の SAF (Server Application Function) によって生成された XML ページを遮断する NSAPI フィルタをインストールして、その XML ページをクライアントにとって適切な HTML、XHTML、または WAP ページに変換することができます。あるいは、NSAPI フィルタが、クライアントから受信したデータを、別のプラグインに提示する前に解凍することもできます。

NSAPI フィルタの詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 NSAPI Programmer's Guide』を参照してください。

1.5.13 NSS および NSPR のサポート

Oracle iPlanet Web Server 6.1 では、NSS をサポートしています。NSS は、セキュリティー対応サーバーアプリケーションのクロスプラットフォーム開発をサポートする一連のライブラリです。Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 には、NSS のバージョン 3.13.1.0 (32 ビットと 64 ビットの両方) および NSPR のバージョン 4.8.9 が含まれています。

1.5.14 PHP 互換性

PHP: PHP (Hypertext Preprocessor) は、サポート対象の 3 つの API (CGI、NSAPI および FastCGI) のいずれかを使用することで、Web Server で使用できます。PHP は、PHP グループから入手可能なページスクリプト言語です。サポート対象の 3 つの API のいずれかを使用して PHP ソフトウェアを設定する方法は、PHP グループの Web サイト (<http://www.php.net>) で詳細に説明されています。

- CGI API は、使用できる中ではもっとも安定したインタフェースですが、CGI に固有のパフォーマンスの制限を受けます。
- NSAPI は、Web Server のネイティブ API を利用し、Web サーバーのメモリー内で PHP ソフトウェアを実行します。この設定により最高のパフォーマンスが提供されますが、スレッドセーフでない PHP モジュールが使用されるとサーバーがクラッシュする危険があります。
- FastCGI インタフェースは、パフォーマンスと安定性を両立させます。FastCGI は、PHP ソフトウェアを Web サーバーのメモリー外で実行しつつ、要求を処理したあとも実行したままにすることを可能にします。不安定な PHP モジュールが使用されても、Web サーバーがクラッシュすることはありません。このため、PHP ソフトウェアでは FastCGI インタフェースを使用してください。

FastCGI インタフェースは、
<http://www.sun.com/download/products.xml?id=42d693c3> から入手可能な
FastCGI アドオンをインストールすることにより、Web サーバーでサポートされま
す。

PHP ソフトウェアは、FastCGI プロセスとして実行した場合、PHP プロセスのライ
フサイクルを制御するために 2 つの環境変数を使用します。

- PHP_FCGI_CHILDREN は、要求に対する応答として作成される PHP プロセスの
数を決定します。
- PHP_FCGI_MAX_REQUESTS は、PHP プロセス自体を終了して新しい PHP プロ
セスに置き換えられるまでに応答できる要求の数を決定します。

注： PHP_FCGI_CHILDREN を使用する代わりに FastCGI アドオンの設
定パラメータ `min-procs` で PHP プロセスの最小数を制御すること
をお勧めします。

1.5.15 検索エンジンのサポート

Web Server 6.1 は、フルテキストの検索インデックス作成と検索を提供する Java 検索エ
ンジンをサポートしています。検索機能を使用すると、ユーザーはサーバー上のドキュメ
ントを検索して、結果を Web ページに表示できます。サーバー管理者は、ユーザーが検
索対象とするドキュメントのインデックスを作成し、固有のニーズに合わせて検索インタ
フェースをカスタマイズできます。

検索機能にアクセスするためのデフォルトの URL は、`http://server-instance:port
number/search` です。

次に例を示します。

```
http://plaza:8080/search
```

ユーザーがこの URL にアクセスすると、Java Web アプリケーションである「検索」ペー
ジが開きます。

基本および高度な検索機能の詳細な手順については、検索エンジンに付属のオンラインヘル
プを参照してください。オンラインヘルプにアクセスするには、「検索」ページの「ヘル
プ」リンクをクリックしてください。詳細は、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12
Administrator's Guide』を参照してください。

1.5.16 Solaris PKCS #11 のサポート

外部の PKCS#11 トークンを Web Server の SSL サブシステム (NSS) で使用するには、
`modutil` コマンドを使用して、トークンを認識するように NSS を設定する必要があります
。Solaris `libpkcs11` ソフトトークンは、PKCS#11 準拠のトークンで、NSS で使用で
きます。UltraSPARC-T1 による追加の利点として、Solaris 10 の `libpkcs11` タスクを使用
するシステムでは、プラットフォームの暗号化アクセラレーションサポートを利用しま
す。

使用方法の情報を得るには、引数なしで `modutil` コマンドを実行します。たとえば NSS
で Solaris 10 `libpkcs11` タスクを PKCS11 トークンとして追加するには、次の手順に従
います。

1. Web サーバーインスタンスの SSL サポートが初期化されたことを確認します。
2. 次のコマンドを実行します。

```
% modutil -dbdir $ALIASDIR -dbprefix $PREFIX -add libpkcs  
-libfile /usr/lib/libpkcs11.so -mechanisms RSA
```

次に、各引数について説明します。

- \$ALIASDIR は、NSS データベースファイルが存在する、インストールルートに対する alias ディレクトリのパスです。
- \$PREFIX は、エイリアスディレクトリの key3 および cer8 データベースファイルで使用されるプレフィックスで、https-\$INSTANCENAME- という形式です。

-mechanisms フラグは、このトークンを指定されたアルゴリズムの優先初期プロバイダにします。

3. すべての機構のリストを得るには、引数なしで modutil コマンドを実行します。
4. pktool を使用して libpkcs11 プロバイダのパスワードを初期化します。

```
% pktool setpin
```

NSS の設定の詳細については、libpkcs11(3LIB)、pkcs11_softtoken(5)、および pktool(1) のマニュアルページを参照してください。modutil の詳細については、<http://www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/tools/modutil.html> を参照してください。

1.5.17 Sun Java Studio Enterprise Support

Web Server 6.1 は、Sun Java Studio Enterprise 8 をサポートします。Sun Java Studio テクノロジは、Java テクノロジ開発者のために Sun が提供する、強力で拡張可能な統合開発環境 (IDE) です。Sun Java Studio は NetBeans ソフトウェアをベースにしており、Sun Java プラットフォームと統合されています。

Sun Java Studio は、Web Server 6.1 でサポートされるすべてのプラットフォームで利用できます。Web サーバー用のプラグインは、次の方法で入手できます。

- Web Server メディアキットの付属 CD
- Sun Java Studio に付属の AutoUpdate 機能を使用する
- Web Server のダウンロードセンター

注： Web Server 6.1 SP13 の Sun Java Studio 8 プラグインは、ローカルの Web サーバーでのみ動作します。つまり、IDE と Web サーバーは同じマシン上にインストールする必要があります。

Sun Java Studio 8 の詳細については、

<http://developers.sun.com/jsenterprise/overview/previous/jse8.jsp> を参照してください。

1.5.17.1 デバッグのための Sun Java Studio Enterprise 8 の使用

デバッグモードで起動したリモート Web サーバーに IDE を手動で接続すると、Sun Java Studio Enterprise 8 をリモートデバッグ用に使用できます。

1. Web Server 管理インターフェースを使用して、デバッグモードでサーバーインスタンスを再起動します (「Server Manager」 > 「JVM General」 > 「Debug Enabled」)。
2. JPDA ポート番号を控えておきます。
3. IDE を起動します。
4. 「Debug」 > 「Start」を選択します。
5. dt_socket メソッドを選択します。
6. リモートマシン名および JPDA ポート番号を入力します。

配備されたアプリケーションのサーバレットソースコード上で、IDE に作成されたブレークポイントがアクティブになります。

1.5.18 64 ビットのサポート

32 ビット Solaris SPARC に対する既存のサポートを補完するために、Web Server 6.1 では 64 ビット Solaris SPARC もサポートしています。

64 ビットリリースは、メモリーを大量に消費する配備環境でも利用できるため、管理者は 32 ビットリリースの場合よりも大きいファイルキャッシュや Java ヒープを設定できます。ただし既存のプラグインは 64 ビットリリースと互換性がありません。これらのプラグインは、プラグインベンダーによって 64 ビットリリース用に再コンパイルされる必要があります。ネイティブの非 Java ライブラリを使用する Java Web アプリケーションも再コンパイルする必要があります。このため、32 ビットリリースの Web Server を配備するほうがよい場合もあります。

Web Server 6.1 SP13 では、FastCGI、Reverse Proxy および Java Web Services Developer Pack (JWSDP) プラグインの 64 ビットサポートも提供しています。

64 ビットリリースは、UltraSPARC プロセッサ上の 64 ビット Solaris カーネルと互換性があります。64 ビットリリースは x86 プロセッサ上で使用したり、32 ビット Solaris カーネルとともに使用したりすることはできません。32 ビットリリースは、32 ビットと 64 ビットの両方の Solaris カーネルとの互換性が継続されます。

注： 64 ビットおよび 32 ビットリリースの Web Server は、別々にパッケージされて配布されます。既存の 32 ビット Web Server インストール環境を 64 ビットインストール環境にアップグレードすることはできません。32 ビットと 64 ビットのリリースは、インストーラ、サーバー起動時、およびサーバーエラーログに表示される次のバージョン文字列で区別できます。

予約解除	バージョン文字列
32 ビット	Sun ONE Web Server 6.1SP13
64 ビット	Sun ONE Web Server 6.1SP13 (64 ビット)

1.5.19 WebDAV のサポート

Web Server 6.1 は、WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning) プロトコルをサポートしています。以下の機能を利用した協調的 Web パブリッシングが可能です。

- RFC 2518 準拠による RFC 2518 クライアントとの相互運用性
- Web パブリッシングのセキュリティーおよびアクセス制御
- ファイルシステムベースの WebDAV コレクションおよびリソースに対する発行の基本操作

WebDAV は、コンテンツのメタデータ、ネームスペース管理、および上書き保護を統合的にサポートします。これらのテクノロジーは、WebDAV をサポートする多くのオーサリングツールに組み込まれ、協同作業環境のための理想的な開発プラットフォームを提供します。

1.6 Web Server 6.1 で推奨されなくなった / 変更された公開インタフェース

Web Server 6.1 の次の公開インタフェースは、Web サーバーの将来のリリースで推奨されなくなるか、または互換性のない方法で修正される可能性があります。これらのインタフェースは、Web Server 6.1 製品内では変更されないままです。これらのインタフェースに依存するスクリプトは、Web サーバーの将来のリリースで機能するように更新する必要があります。

表 1-3 推奨されなくなった / 変更された公開インタフェース

設定ファイルまたはユーティリティ	説明
magnus.conf	変更されました。一部の機能は別のファイルに移動されます。
server.xml	変更されました。スキーマと機能が変更されます。
nsfc.conf	非推奨になりました。機能が別のファイルに移動されます。
dbswitch.conf	非推奨になりました。このファイルは削除される可能性があります。機能は別のファイルに移動されます。
password.conf	非推奨になりました。このファイルは削除される可能性があります。機能は別のファイルに移動されます。
ファイルレイアウト	変更されました。設定ファイルの構造が変更されます。
起動、停止、再起動、ローテーションの各スクリプト	変更されました。これらのユーティリティの名前または場所、あるいはその両方は変更される場合があります。
wdeploy アプリケーション	非推奨になりました。このユーティリティは削除される可能性があります。機能は別の管理ユーティリティに統合されます。

1.7 インストール、アップグレード、移行に関する注意事項

この節では、Web Server のインストール、アップグレード、および移行に関する注意事項を示します。これらのトピックの詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Installation and Migration Guide』を参照してください。Web Server のこのリリースの既知の問題については、[第 2 章「既知の問題点」](#)を参照してください。

1.7.1 インストールの注意事項

次の事項に注意してください。

- Oracle iPlanet Web Server を、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールしないでください。

Web サーバーは、たとえば Program Files のようにディレクトリ名の中に空白が含まれているディレクトリにインストールされている場合には起動しません。インストール中にはこの問題についてのエラーメッセージは表示されませんが、インストール後にサーバーが起動しません。
- Web サーバーは compat-libstdc++ がないと、Red Hat Linux Advanced Server 3.0 にセットアップできません。

1.7.2 アップグレード

既存のインストールの上に Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 をインストールする場合、インストーラが自動的にアップグレードを実行します。

Sun ONE Web Server 6.1 SP1 がすでにインストールされている場合は、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 のインストーラに 6.1 SP1 がインストールされている場所を示してからアップグレードしてください。

1.7.3 移行

4.1 より前のバージョンの Web Server から Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 への直接的な移行はサポートされていません。最初に、旧バージョンのサーバーを Web Server 4.1 に移行し、それから Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 に移行する必要があります。

移行の詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Installation and Migration Guide』を参照してください。このガイドには、Version 4.1 から 6.1、および Version 6.0 から 6.1 への移行に関する情報が含まれています。

1.8 問題の報告とフィードバックの方法

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 で問題が発生した場合は、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) にご連絡ください。

サポートに連絡する前に、次の情報を手元に用意してください。サポート担当者はこれらの情報をもとに、お客様の問題解決に向けてもっとも適切な対応を行うことができます。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

既知の問題点

この章では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 がリリースされた時点での重要な既知の問題および制限を一覧表示します。

問題は次のグループに分かれています。

- Oracle iPlanet Web Server 6.1 の一般的な問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 の管理の問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のコアの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のマニュアルの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のインストールの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のローカリゼーションの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 の移行の問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のサンプルの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 の検索の問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のセキュリティーの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 のツールの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 の Web コンテナの問題
- Oracle iPlanet Web Server 6.1 の WebDAV の問題

2.1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 の一般的な問題

表 2-1 に、一般的な既知の問題を示します。

表 2-1 一般的な既知の問題

問題 ID	説明
6496339	<p>(Windows 2003 のみ) Web Server 6.1 SP6 で、lganalyz.exe アプリケーションエラーによりレポート作成が失敗する。</p> <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web サーバマシンにログインします。 2. <code>WSinstall¥bin¥https¥httpadmin¥bin</code> に移動します。 3. <code>flexanlg util</code> コマンドを実行して、レポートを取得します。たとえば、次のようになります。<code>C:/Sun/WEBSER~1.1/extras/flexanlg/flexanlg -F -n jwsoffice -x -i C:/Sun/WEBSER~1.1/HTTPS~2/logs/access -c hnrfeuok -t s5m5h10 -l c+5h5 -p ctl</code> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記のコマンドはひと続きの行で入力してください。 ■ <code>jwsoffice</code> を、使用しているホスト名または IP アドレスに置き換えます。出力を HTML ファイルにエクスポートして、ブラウザを使用してそれを表示することもできます。<code>flexanlg</code> ユーティリティの詳細については、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Guide』を参照してください。
6553259	<p>Web Server 6.1 SP8 を JDK 6 を使用して実行すると、それよりも古いバージョンの JDK を使用して実行した場合は異なる順序で検索コレクション名 (チェックボックス) が検索ページに表示される。</p>
6198559	<p>JES3: Linux での Web サーバのパッチアップグレードで、誤ったアンインストール通知が表示される。</p>
4988370	<p>HP-UX 11.0 プラットフォームで、特定の状況で内容が更新されない。</p>
6413819	<p>HP-UX オペレーティングシステムには、ファイルアクセス用に 2 つのキャッシュ領域「ページキャッシュ」および「バッファークッシュ」がある。一般に、アプリケーションが <code>mmap</code> 関数を実行すると、ファイルはページキャッシュにマップされる。</p> <p>ただし現在のところ、PRIVATE オプションを指定して <code>mmap</code> が実行されても、オペレーティングシステムが「ページキャッシュ」と「バッファークッシュ」の間でデータを同期することはない。ファイルをコピーする場合でも、オペレーティングシステムがキャッシュされたデータを更新するのは、「バッファークッシュ」内に限られる。</p> <p>回避方法: テキストエディタを使用して、毎回内容を更新します。</p>
6404983	<p>管理 GUI を使用して LDAP サーバからユーザーおよびグループを検索すると失敗する。</p> <p>回避方法: この機能を動作させるには、Red Hat AS 3.0 Update 1-<code>uname -r: 2.4.21-9.ELsmp</code> をインストールします。</p>
5060906	<p>インデックスファイルのない保護されていないディレクトリに対して、承認ダイアログボックスが表示される。</p> <p>追加情報: ディレクトリに <code>index.html</code>、<code>index.jsp</code>、<code>home.html</code> などのインデックスファイルがないと、ACL 認証が有効な場合に、このディレクトリが保護されていなくても、読み取りおよび書き込み権限を持つすべてのユーザーがリストへのアクセスを拒否されます。</p> <p>回避方法: 6.1 の以前の動作に戻すには、匿名ユーザーにリスト権限が許可されるように、デフォルトの ACL を変更します。次のように変更します。</p> <pre>allow (read, execute, info, list) user = "anyone"</pre>
6590899	<p>Web サーバが起動時に JDK 1.5 の初期化に失敗する。</p> <p>回避方法</p> <p>起動スクリプトに次のように設定します。</p> <pre>LDR_CNTRL=MAXDATA=0xB0000000@DSA; export LDR_CNTRL</pre>

2.2 Oracle iPlanet Web Server 6.1 の管理の問題

表 2-2 に、管理における既知の問題を示します。

表 2-2 管理における既知の問題

問題 ID	説明
6922055	<p>6.1 SP12 以降 - 管理 GUI で検索の「有効」チェックボックスをオフにできない</p> <p>JDK 1.6 を Web Server 6.1 SP12 以降で使用している場合は、「仮想サーバーの検索」タブの「有効」オプションを無効にできません。チェックボックスをオフにし、「了解」をクリックして変更を保存し、設定が正常に更新されたと通知された場合でも、このオプションは有効なままになります。</p> <p>回避方法: 管理 GUI を使用して検索を無効にする代わりに、instance/config/server.xml ファイルを編集して、検索 Web アプリケーションの enabled="true" を enabled="false" に変更します。</p>
6543821 6531819	<p>待機ソケットを削除、またはそのポート番号を変更してサーバーを再起動または再構成した場合、サーバーが古い待機ソケットを閉じることができない。オペレーティングシステムはそのポートでの接続を受け入れ続けるが、サーバーはそのポートでの要求に対応しない。</p> <p>回避方法: 古い待機ソケットを閉じ、サーバーを停止して再起動します。</p>
6301761	<p>Mozilla 1.4 および Firefox 1.0.6 で、ACL アプレットのロードに失敗する。</p>
6021151	<p>HttpServerAdmin を使用して JNDI リソースを作成する際、LDAP ドメイン名にコンマが含まれていると問題が発生する。</p> <p>回避方法: HttpServerAdmin でプロパティ内の「,」をエスケープするには、エスケープ文字として「\」を使用します。Windows プラットフォームでは「¥」を使用します。</p> <p>プロパティ</p> <pre>java.naming.provider.url=ldap://localhost:389/ou=loggingQueues,ou=tms,ou=services,ou=abc の場合、「,」を次のようにエスケープします。</pre> <pre>-property java.naming.provider.url=ldap://localhost:389/ou=loggingQueues\,ou=tms\,ou=services\,ou=abc</pre>
5035129	<p>RedHat Linux Advance Server 3.0 上で WS 6.1 SP2 Admin を使用して、Directory Server の user/group/ou を管理できない。</p>
4650456	<p>マルチバイト文字を使用すると、「View Access」および「View Error」が正しく機能しない。</p>
4652585	<p>分散管理を有効にすると、ローカルの管理ユーザーが無効になる。</p> <p>回避方法: 分散管理のグループ内に、デフォルトの管理ユーザー名でユーザーを作成します。</p> <p>新規に作成した LDAP 管理ユーザーには、Web サーバーの管理ユーザーと同じパスワードを設定する必要があります。</p>
4725683	<p>ログファイルの日付スタンプが、ローカルのタイムゾーンになっていないため、正しくない日付が表示される。</p> <p>回避方法: ログファイル名の拡張子の日付をログエントリの日付にする場合は、23:59 でログファイルがローテーションするようにサーバーを設定します。</p>
4761960	<p>Web Server 6.0 SP4: SASL および匿名バインドを使用すると、分散管理を有効にできない。</p> <p>回避方法: SSL 対応のディレクトリサーバーに匿名バインドを使用しないでください。</p>

表 2-2 (続き) 管理における既知の問題

問題 ID	説明
4841310	<p>.htaccess で認証すると、REMOTE_USER 変数を取得できない。</p> <p>回避方法: .htaccess ファイルを使用可能にすると、サーバーはリソースを提供する前に、.htaccess ファイルを確認します。サーバーはリソースと同じディレクトリおよびそのディレクトリの親ディレクトリで .htaccess ファイルを検索します。この検索はドキュメントのルートまで続けられます。たとえば、「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されているときに、クライアントが /sun/server/docs/reports/index.html を要求すると、サーバーは /sun/server/docs/reports/.htaccess および /sun/server/docs/.htaccess で .htaccess ファイルを確認します。</p> <p>サーバーの「Additional Document Directories」および「CGI Directory」機能で、管理者は代替のドキュメントルートを定義できます。代替のドキュメントルートが存在すると、.htaccess ファイルの処理に影響します。たとえば、サーバーの「Primary Document Directory」が /sun/server/docs に設定されていて、CGI プログラムが /sun/server/docs/cgi-bin/program.cgi にあるとします。</p> <p>CGI を「File Type」として有効にした場合、クライアントが CGI プログラムに要求を発行すると、サーバーは /sun/server/docs/.htaccess と /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess の両方の内容を評価します。</p> <p>しかし、「CGI Directory」として /sun/server/docs/cgi-bin を設定すると、サーバーは /sun/server/docs/cgi-bin/.htaccess は検査しますが、/sun/server/docs/.htaccess は検査しません。これは、「CGI Directory」で /sun/server/docs/cgi-bin を指定したことで、代替のドキュメントルートとしてマークされたためです。</p>
4865295	管理インタフェースの分散管理下で、エンドユーザー管理機能がサポートされない。
4882999	管理 GUI のページの見た目と使い心地に一貫性がない。
4888696	<p>Netscape Navigator 7.0 で情報の入力が必要な場合に、管理 GUI の「Add Server」ページが消える。</p> <p>回避方法: 「OK」をクリックする前に「Add Server」ページに完全な情報を入力してください。必要であれば、「Add Server」の GUI を復元するためにページを再読み込みするか、別のページまたは別のタブをクリックして、「Add Server」ページに戻ってください。このバグは、Netscape Navigator 7.0 でのみ発生します。</p>
4910309	<p>「NULL」が警告メッセージで正しく表示されない。</p> <p>この語は、Virtual Server Manager の「Virtual Server」ページの Pick Directory でディレクトリサービスを編集しているときに表示されます。</p>
4905808	<p>スーパーユーザーが、分散管理を有効にしたあと、管理インタフェースにアクセスできない。</p> <p>回避方法: 分散管理を有効にしたあと、「スーパーユーザー」と同じ管理ユーザー名とパスワードを持つ LDAP のユーザーを作成します。</p>
4908694	<p>ログ設定用のデフォルトのリンクが動作しない。</p> <p>「Virtual Server」ページ用の「Logging Settings」でデフォルトリンクがデフォルトのパスを設定せず、リセットボタンとして動作します。</p>
4911552	.shtml ファイルが、構文解析されるべきでないときに構文解析される。
ID なし	<p>Web サーバーに付属の sun-web.xml ファイルで間違った DTD の場所が示されている。</p> <p>修正: 正しい場所は http://www.sun.com/software/dtd/appserver/sun-web-app_2_3-1.dtd です。</p>

表 2-2 (続き) 管理における既知の問題

問題 ID	説明
6284698	<p>root ユーザーでないユーザーとしてインストールすると、Web サーバーが動作しない。</p> <p>回避方法: Web 管理コンソールを使用せずに、コマンド行から Web サーバーインスタンスを起動します。</p>
6078104	<p>passthrough プラグインが設定されている場合に、Web Server 6.1 から JSP アプリケーションにアクセスできない。</p> <p>回避方法: passthrough の service 指令から、次のように行を変更します。</p> <pre>Service type="magnus-internal/passthrough" fn="service-passthrough"servers="http://server:port "</pre> <p>上記の行を次のように変更します。</p> <pre>Service fn="service-passthrough" servers="http://server:port "</pre>
4991278	JSP ClassCache ファイルを削除するための管理 GUI 機能がない。
6316265	管理 GUI では、変更を有効にするために「Click Apply」と指示されているが、管理サーバーに「Apply」ボタンはない。
6720218	<p>Solaris 10 で SNMP Web サーバーサブエージェントが snmpwalk コマンドにตอบสนองしない。</p> <p>Web Server 6.1 にバンドルされている SNMP マスターエージェントは、Solaris 10 U2 (およびそれ以降) では Solaris 10 U2 で追加された TCP fusion 機能が原因でハングアップします。</p> <p>回避方法: 回避方法は 2 つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ /etc/system で次の行を追加して、TCP fusion を無効にします。 <pre>set ip:do_tcp_fusion = 0x0</pre> ■ tcp_xmit_hiwat 値を 262144 など、より大きい値に変更します。 <pre># ndd -set /dev/tcp tcp_xmit_hiwat 262144</pre> <p>ピア snmp マスターエージェントは正しく機能します。</p> <p>tcp_xmit_hiwat 値を設定する場合、rc スクリプト内に配置すると、システムの再起動後に手動で設定せずに済みます。</p>

表 2-2 (続き) 管理における既知の問題

問題 ID	説明
6708852	<p>ACL が server.xml 内の USERDB を更新せず、ページへのアクセス時に [NSACL6000] HTTP5239 エラーが発生した</p> <p>ACL に対してデフォルト以外の authdb を使用する場合は、authdb の詳細が server.xml に追加されていることを確認してください。追加されていない場合、ACL によって保護されているページにアクセスしたときに、サーバーは次のエラーをスローします。</p> <p>[NSACL6000] HTTP5239: digestrealm is not a registered database</p> <p>回避方法:</p> <p>このエラーは、次に示すように、server.xml で「デフォルト」として USERDB が設定されたままで、ACL に対して「digest1」を見つけれられないために発生します。</p> <pre><VSCCLASS id="vsclass1" objectfile="obj.conf"> <VS id="https-testdigest" connections="lsl" mime="mime1" aclids="acl1" urlhosts="apple"> <PROPERTY name="docroot" value="/export/home/iws6.1sp9/docs"/> <USERDB id="default"/></pre> <p>以下の情報を server.xml 内の必要な仮想サーバーの下のデフォルト USERDB 宣言の後に手動で追加してから、サーバーを再起動します。</p> <pre><USERDB id="digestrealm" database="digestrealm"/></pre> <p>authdb が dbswitch.conf および ACL ファイルで適切に記述されていることも確認する必要があります。</p> <p>dbswitch.conf ファイル:</p> <pre>apple:/export/home/iws6.1sp9> cat userdb/dbswitch.conf directory digestrealm file digestrealm:syntax digest digestrealm:digestfile /export/home/iws6.1sp9/digestrealm</pre> <p>ACL ファイル:</p> <pre>acl "default"; authenticate (user,group) { database = "digestrealm"; method = "digest"; prompt = "digestrealm"; }; deny (all) (user = "anyone"); allow (read,execute,list,info) (user = "all");</pre>

2.3 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のコアの問題

表 2-3 に、コアにおける既知の問題を示します。

表 2-3 コアにおける既知の問題

問題 ID	説明
6363944	<p>Web Server 6.1SP5 (64 ビット) で Solaris 暗号化ソフトトークン (libpkcs11.so) を使用すると、webserverd 子プロセスが孤立する。</p> <p>回避方法: この問題は、Solaris ソフトトークンを使用するようにサーバーが明示的に設定されているときに限り発生します。fork()、Runtime.exec()、または <!--#exec cmd="..."--> を使用する必要がある場合は、Solaris ソフトトークンを使用するようにサーバーを設定しないでください。</p>
6641109	<p>NFS マウントされた docroot ディレクトリを使って設定された Web サーバーがクラッシュする</p> <p>NFS を使用していて MediumFileSizeLimit>0 の場合に NFS ファイルが削除または置換されると、Web サーバーがクラッシュします。したがって、ドキュメントルートが NFS 上にマウントされている場合は、MediumFileSizeLimit>0 を使用しないようにしてください。</p> <p>回避方法</p> <p>NFS クライアントのように、Web サーバーのドキュメントが NFS マウント上に存在している場合には、nsfc.conf 内で MediumFileSizeLimit を 0 に設定します。</p>
6766108	<p>index ファイルが Web サーバーの config ディレクトリから表示される。</p> <p>ディレクトリの索引化が「None」に設定されているとき、Web サーバーは 404 エラーの代わりに 500 エラーをスローします。また、index ファイルが config ディレクトリから表示され、重要な情報が公開されます。</p> <p>回避方法</p> <p>obj.conf ファイルを次のように変更することにより、応答が修正され、index ファイルを表示せずに 404 エラーを返すようになります。</p> <pre><Client type="magnus-internal/directory"> ObjectType fn="set-variable" error="403" noaction="true" </Client> Service method="{GET HEAD}" type="magnus-internal/directory" fn="send-error" path="/tmp/index.html" Service method="{GET HEAD POST}" type="*~magnus-internal/*" fn="send-file" Service method="TRACE" fn="service-trace"</pre>

2.4 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のマニュアルの問題

表 2-4 に、マニュアルとオンラインヘルプにおける既知の問題を示します。

注: 各国語版の 6.1 のマニュアルにおける既知の問題の一覧については、付録 B.16 「6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題」を参照してください。

表 2-4 マニュアルにおける既知の問題

問題 ID	説明
6506960	オンラインヘルプで認証パスワードの最大文字数が 8 文字と記載されている。 追加情報: 認証パスワードの認証文字は 8 文字より長くできます。
4964908	機能のアップグレードに関するマニュアルがない。 追加情報: 第 1.7 節「インストール、アップグレード、移行に関する注意事項」を参照してください
4928287	<instance>/lib が存在していないことをドキュメントに記載する必要がある すべてのドキュメントで、<instance>/lib ディレクトリが存在しないことを通知していない。 追加情報: このディレクトリはインストーラによって作成されません。ディレクトリが存在しない場合、ユーザーが作成する必要があります。
6237303	『SUN ONE Web Server 6.1 リリースノート』には、Solaris SPARC プラットフォームに必要なパッチで記載されていないものがある。 追加情報: Solaris release 8 上の Web Server 6.1 には、109326-09 パッチが必要です。

2.5 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のインストールの問題

表 2-5 に、インストールにおける既知の問題を示します。

表 2-5 インストールにおける既知の問題

問題 ID	説明
6590899	AIX Web サーバーが起動時に JDK 1.5 の実行に失敗する。 回避方法 起動スクリプトに次のように設定します。 <code>LDR_CNTRL=MAXDATA=0xB0000000@DSA; export LDR_CNTRL</code>
5020317	JDK だけをアップグレードすると、検索が使用できなくなる。ユーザーは例外を受け取り、検索ページは GUI からアクセスできない。 回避方法: この例外は、Web Server 6.1 SP2 コアと一緒にインストールされているか、JDK を単独でインストールする前にインストールされている場合は発生しません。また、JDK をアップグレードした Web Server 6.1 SP1 の上に Web Server 6.1 SP2 コアをインストールしている場合も、例外は起きません。
4855263	Web Server は、たとえば Program Files のようにディレクトリ名の中に空白が含まれているディレクトリにインストールされている場合には起動しません。これについてのエラーメッセージは、インストール中には表示されませんが、インストール後にサーバーは起動しません。 回避方法: Web サーバーを、ディレクトリ名に空白が含まれているディレクトリにインストールしないでください。
4869238	Microsoft Windows プラットフォームにおいて、Web Server インストーラが、server-root などのロングネームを受け付けない。 回避方法: Web Server インストールディレクトリのパス名は、フィールドでは 256 文字まで入力できますが、128 文字以内で指定してください。
4901205	Solaris プラットフォームで、インストーラの「完全修飾ドメイン名」画面に続く画面（「ユーザーおよびグループ名」画面から始まる）で、Ctrl + B キーが機能しない。 回避方法: インストール中、前の画面に戻る必要がある場合は、インストーラを終了して再起動してください。

表 2-5 (続き) インストールにおける既知の問題

問題 ID	説明
4937915	AIX プラットフォームでインストール中に Ctrl + C キーを押すと端末画面がハングする。 この問題は、Web サーバーがインストールされるコンピュータ名を指定するための画面で発生します。
4960048	Web Server 6.1 SP1 にアップグレードするときに、SNMP 関連ファイルがいくつか上書きされる。 回避方法: アップグレードの前に次のファイルをバックアップしてください。 server-root/plugins/snmp/magt/CONFIG server-root/plugins/snmp/sagt/CONFIG

2.6 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のローカリゼーションの問題

表 2-6 に、ローカリゼーションにおける既知の問題を示します。

表 2-6 ローカリゼーションにおける既知の問題

問題 ID	説明
4937055	Web サーバーの管理オンラインヘルプは一部しかローカライズされていない。 管理オンラインヘルプは、初期段階までしかローカライズされていません。初期ヘルプページはローカライズされていますが、ページのリンク、たとえば「サーバーの削除」をクリックしても、英語版のヘルプ内容が表示されます。
6441984	ロケールを zh-cn に設定しても、管理オンラインヘルプが英語で表示される。 zh-cn ロケール用の管理オンラインヘルプは英語で記述されています。ブラウザのロケールが zh-cn の場合、管理 GUI オンラインヘルプは英語で表示されます。 回避方法: 中国語でオンラインヘルプを表示するには、ブラウザのロケールを zh に設定します。
6583870	Web Server 6.1 SP8: Internet Explorer 7 では、ロケールを ja か ja-JP に選択できません。ロケールを ja に選択した場合、オンラインヘルプは日本語で表示されます。ただし、ロケールを ja-JP に選択した場合は、オンラインヘルプは英語で表示されます。

2.7 Oracle iPlanet Web Server 6.1 の移行の問題

表 2-7 に、移行における既知の問題を示します。

表 2-7 移行における既知の問題

問題 ID	説明
6932016	<p>組み込み CA ルートでの Verisign EV 証明書チェーンの問題。</p> <p>Verisign EV の 2048 ビット SSL Web サーバー証明書を使用している場合は、Web Server 6.1 の以前のバージョンから Web Server 6.1 SP13 にアップグレードしたあと、一部の古いブラウザで「Certificate Authority Not Trusted」という警告が表示されることがあります。</p> <p>回避方法：</p> <ol style="list-style-type: none">1. Web Server を停止します。2. インストールルートディレクトリの alias サブディレクトリに移動します。 <pre>cd install_dir/alias</pre>3. Root Certs モジュールを一覧表示します。 <pre>modutil -list -nocertdb -dbdir .</pre>4. Root Certs モジュールを削除します。 <pre>modutil -dbdir . -delete 'Root Certs'</pre>5. Root Certs モジュールが削除されたことを確認します。 <pre>modutil -list -nocertdb -dbdir .</pre>6. Web Server を起動します。 <p>注：この回避方法を実行したあとで Web Server をアップグレードする場合は、アップグレード後にこの回避方法を繰り返す必要があります。そうしないと、組み込みの VeriSign Class 3 Public Primary CA - G5 CA ルート証明書が再度表示され、一部の古いブラウザで「Certificate Authority Not Trusted」という警告が再度表示されることがあります。</p>

表 2-7 (続き) 移行における既知の問題

問題 ID	説明
6514480	<p>移行時に JAVA を有効にすることを選択し、移行後 GUI から有効にしたあとでも、移行した 4.1 インスタンス上で JAVA を有効にできない。</p> <p>回避方法: 次のエントリを手動で obj.conf ファイルに入力してインスタンスを再起動します。</p> <pre><Object name="default"> NameTrans fn="ntrans-j2ee" name="j2ee" NameTrans PathCheck ObjectType Service Error fn="error-j2ee" AddLog </Object> <Object </Object> <Object name="j2ee"> Service fn="service-j2ee" method="*" </Object></pre>
4790457	<p>移行したサーバーのドキュメントルートを 4.1 から変更できない。</p> <p>回避方法: 移行したインスタンスの obj.conf および server.xml を手動で編集します。これらのファイルは、SERVER_ROOT/HTTPS-INSTANCE /config ディレクトリの下にあります。</p> <p>obj.conf で、次の行を変更します。</p> <pre>NameTrans fn=document-root root="<existing_doc_root>"</pre> <p>上記の行を次のように変更します。</p> <pre>NameTrans fn=document-root root="\$docroot"</pre> <p>server.xml で関連する VSCLASS 下の次の行を変更します。</p> <pre><PROPERTY name="docroot" value="existing-doc-root"></pre> <p>上記の行を次のように変更します。</p> <pre><PROPERTY name="docroot" value="new-doc-root"></pre>
6213097	<p>ktsearch.jar が Sun Java Enterprise System 3 (JES3) で正しく移行されない。</p> <p>回避方法: 正しいパスを指すように、移行されるインスタンスの server.xml ファイルを手動で編集します。</p> <p>Linux の場合: /opt/sun/private/share/lib/ktsearch.jar</p> <p>Solaris SPARC の場合: /usr/share/lib/ktsearch.jar</p>

表 2-7 (続き) 移行における既知の問題

問題 ID	説明
5007081	6.0 から 6.1 への移行時に、Web アプリケーションファイルのステータスが無視される server.xml 内で、ファイルレベルで定義された Web アプリケーションの状態は移行されません。ユーザーが Web アプリケーションファイルのステータスをオフに切り替えてこれらを抑制しても、移行後これらの Web アプリケーションは公開されます。 回避方法: 移行されるインスタンスの server.xml ファイルを編集し、各 Web アプリケーションの状態をオフにします。
4988156	既存のインストールへの SP_2 パッチのインストール (更新) Sun Java Enterprise System (JES) の一部としてインストールした Web Server 6.1 を最新の Service Pack にアップグレードする必要がある場合は、関連するパッチをダウンロードし適用する必要があります。詳細については、『JES 3 の移行およびアップグレード』を参照してください。

2.8 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のサンプルの問題

表 2-8 に、サンプルアプリケーションにおける既知の問題を示します。サンプルアプリケーションが正しく機能するのを妨げる問題はありません。

表 2-8 サンプルアプリケーションにおける既知の問題

問題 ID	説明
5014039	web.xml で、simple の JSP ファイルが distributable タグのため例外をスローする。 回避方法: <ol style="list-style-type: none"> 1. /simple/src ディレクトリ下の web.xml から、distributable タグを削除します。 2. Web アプリケーションを再配備します。
ID なし	rmi-iiop サンプルで手順が 1 つ抜けている。 「Deploying the Sample Application」セクションで、コマンド ant deploy (手順 2) の実行後、Web サーバーインスタンスを再起動します。 注: 「ant」は Java のビルドツールで、Apache からダウンロードする必要があります (http://ant.apache.org)。install-root/plugins/java/samples/docs/ant.html の情報も参照してください。
ID なし	jdbcrealm サンプルの Oracle ドライバ名が誤っている。 「Compiling and Assembling the Sample Application」セクションの手順 2b で、次の行を変更します。 <pre><PROPERTY name="dbdrivername" value="oracle.jdbc.pool.OracleDataSource"></pre> 上記の行を次のように変更します。 <pre><PROPERTY name="dbdrivername" value="oracle.jdbc.driver.OracleDriver"></pre>

2.9 Oracle iPlanet Web Server 6.1 の検索の問題

表 2-9 に、検索における既知の問題を示します。

表 2-9 検索における既知の問題

問題 ID	説明
4977315	6.1 の AIX 検索エンジンには、ソート順序を変更する機能がない。
5038203	<p>回避方法: デフォルトの順序を変更するには、ソート文字列の先頭に「+」を追加します。URL 内の「+」はエスケープされるため、「%2B」を使用して順序を変更します。この場合、URL を</p> <pre>http://host/search/index.jsp?si=1&ns;=10&c;=test&qt;=*&sb;=%2Bwriter</pre> に変更します。
4684124	<p>すでにインデックス作成済みのコレクションのドキュメントルートを変更した場合、検索で返されるドキュメントは「<i>Document Not Found</i>」エラーをスローする。</p> <p>回避方法: 次のいずれかの手順を実行して、コレクション全体を再構築します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべてのドキュメントを削除し、もう一度追加します。 ■ コレクションを削除し、もう一度追加します。
4911725	<p>大文字と小文字の異なるパターンを使用して、単語を検索した場合に、検索が機能しない。</p> <p>大文字と小文字の混在した単語を検索した場合、検索結果は検索ページに表示されません。たとえば、sample や SAMPLE の代わりに sAmPLe と入力した場合などです。</p>
4963236	<p>HP-UX: 検索コレクションに含めるための PDF ファイルから HTML への変換ができない。</p> <p>この問題は、HP-UX 11i システムに次のパッチがインストールされると発生します。</p> <p>PHSS_28871 - ld/linker 累積パッチ</p>
6701532	<p>検索エンジンが、パスワードで保護された PDF ドキュメントのインデックス作成に失敗する。</p> <p>PDF ドキュメントがパスワードで保護され暗号化されている場合、検索エンジンがそのドキュメントのメタデータのインデックス作成に失敗します。その結果、要求された検索が失敗します。</p>
6731491	<p>Web Server 6.1 SP10 (64 ビット) の Solaris SPARC で、JDK 1.6.0_07 の使用時にいくつかの検索テストが失敗する。</p> <p>検索テストの実行中に JDK 1.6.0_07 を使用すると、いくつかのテストケースが失敗し、スタックオーバーフローエラーが発生します。一方、バンドルされた JDK 1.5.0_16 では同じテストが成功します。</p> <p>回避方法: StackSize 値を 131072 から magnus.conf ファイル内の値 262144 などに変更します。</p>

2.10 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のセキュリティーの問題

表 2-10 に、セキュリティーにおける既知の問題を示します。

表 2-10 セキュリティーにおける既知の問題

問題 ID	説明
4671445	<p>Web Server が、LDAP クライアント認証を要求される場合、SSL を介して LDAP サーバーに接続できない。</p> <p>Web Server がクライアント認証を必要とする LDAP サーバーに接続する (この場合、Web Server がクライアントになる) 場合、Web Server の証明書を送信できず、アクセスが失敗します。</p>

表 2-10 (続き) セキュリティーにおける既知の問題

問題 ID	説明
4863599	異なる組織単位の下では同じグループ名を使用できない。 同じグループ名が使用されていて、グループ名でアクセスを制限しようとした場合、Web Server は、クライアントがそのサイトにアクセスしようとしたときにエラーを返します。 回避方法: 各組織単位では異なるグループ名を使用してください。
4963468	環境によっては、「リスト」権限がディレクトリのリスト表示に効力を発揮しない。 『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Guide』の「Controlling Access to Your Server」によると、インデックスファイルを格納していないディレクトリからディレクトリリストを取得するには「リスト」権限が必要です。しかし、特定の環境においては、適切な ACL によってリスト権限が拒否された場合でも、ディレクトリのリストを取得できます。 ディレクトリの索引化を制限する必要がある場合は、リスト権限を拒否する代わりに、またはリスト権限の拒否に加えて、『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Guide』の「Content Management」で説明されているように、索引化を無効にします。
6310956 6298215	LDAP が時間切れ (LDAP にタイムアウトが設定されているなど) のため接続をドロップすると、Web サーバーは LDAP への接続を再初期化できない。この問題は、Web サーバーが JES3 または JES4 インストールの一部としてインストールされている場合にのみ発生する。スタンドアロン (ファイルベース) インストールでは発生しない。 回避方法: 1. Web サーバーのファイルベースのインストールからライブラリ libldap50.so をコピーし、現在のセットアップの次の場所に貼り付けます。 /opt/SUNWwbsvr/bin/https/lib 2. Web サーバーを再起動します。

2.11 Oracle iPlanet Web Server 6.1 のツールの問題

表 2-11 に、ツールにおける既知の問題を示します。

表 2-11 ツールにおける既知の問題

問題 ID	説明
4905696	Microsoft Windows では、ファイル名を含めたクラスファイルの深さが 255 文字を越えた場合、配備は失敗する。
4912181	Linux では、wdeploy コマンド行ユーティリティーを使用してアプリケーションを配備したとき、NULL ポインタ例外がスローされる。この問題は、配備の終了時に、配備が成功した場合のみ発生する。 回避方法: このエラーは、配備に続いて reconfigure スクリプトを実行した後、wdeploy が stdout/stderr を読み込むときに発生します。再設定メッセージのエラーログを調べて、サーバーが実際に再設定を行なったかどうか確認する必要があります。メッセージがそこになかった場合、手動で reconfigure スクリプトを実行してください。

2.12 Oracle iPlanet Web Server 6.1 の Web コンテナの問題

表 2-12 に、Web コンテナにおける既知の問題を示します。

表 2-12 Web コンテナにおける既知の問題

問題 ID	説明
6387189	配備されたモジュールでの Java のロギングの問題。
4903162	url-patterns での大文字と小文字の使用に関連した Microsoft Windows の問題。 サーブレットの仕様により、web.xml の url-pattern 要素は大文字と小文字が区別されて扱われます。これによって Microsoft Windows ではユーザーの予期しない動作が発生する場合があります。たとえば、クライアントが index.html と一致するものと考えて index.HTML を要求した場合など。

2.13 Oracle iPlanet Web Server 6.1 の WebDAV の問題

表 2-13 に、WebDAV における既知の問題を示します。

表 2-13 WebDAV における既知の問題

問題 ID	説明
4892017	親ディレクトリが排他的にロックされた場合、リソースの名前を変更、またはリソースの移動ができない。 この問題は、DAV クライアントが誤った If : ヘッダーを送信するとき発生します。たとえば、Macromedia Dreamweaver または DAV Explorer を使用して Web サーバーに接続し、コレクションを作成して、コレクションを無限の深さでロックする (そのリソースもすべてロックされる) 場合、リソースの名前を変更、またはリソースを削除できません。Adobe GoLive は、ロックの owner href が auth_user と一致する場合に、If : ヘッダーを送信します。それ以外の場合には、GoLive でも、誤ったヘッダーも送信されます。
4902651	Virtual Server Manager の「Lock Management」画面が、ハードリンク用のロック情報を適切に表示しない。 ハードリンクおよびシンボリックリンクは、Web Server の WebDAV 実装ではサポートされません。

製品マニュアル

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP12 は、Oracle iPlanet Web Server 6.1 のドキュメントセット全体が更新された最新のリリースです。6.1 SP12 リリースのあとで 6.1 のマニュアルに加えられた更新と修正は、このリリースノートに記載されています。第 3.1 節「6.1 SP12 のマニュアルに対する修正と更新」を参照してください。

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP12 のマニュアルは、PDF および HTML の形式で

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19857-01/index.html> からオンラインで入手できます。

表 3-1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 マニュアルのロードマップ

項目	参照先
ソフトウェアと文書に関する最新情報	『Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 リリース ノート』(このマニュアル)
Web Server 6.1 FastCGI プラグインに関する情報。サーバーアプリケーション機能 (SAF)、インストール、構成、テクニカルノート、およびその他のリソースの場所に関する情報を含みます。	『FastCGI Plug-in Release Notes』
Web Server 6.1 逆プロキシプラグインに関する情報。サーバーアプリケーション機能 (SAF)、インストール、構成、テクニカルノート、およびその他のリソースの場所に関する情報を含みます。	『Reverse Proxy Plug-in Release Notes』
Web Server 入門。サーバーの基本と機能を紹介する実習を含む (はじめて使用するユーザーに推奨)	『Getting Started Guide』
以下のインストールおよび移行作業の実行 <ul style="list-style-type: none"> ■ Web Server とその多様なコンポーネントのインストール、サポートするプラットフォーム、および環境 ■ Sun ONE Web Server 4.1 または 6.0 から Web Server 6.1 への移行 	『Installation and Migration Guide』 注: Sun Java Enterprise System 1 がインストールされているシステムで、Sun Java Enterprise System 1 の一部である Oracle iPlanet Web Server 6.1 を Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 にアップグレードする場合、Java Enterprise System (JES) インストーラを使用してアップグレードする必要があります。Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 に付属の、独立したコンポーネントインストーラは使用しないでください。

表 3-1 (続き) Oracle iPlanet Web Server 6.1 マニュアルのロードマップ

項目	参照先
以下の管理作業の実行	『管理ガイド』
<ul style="list-style-type: none"> ■ 管理およびコマンド行インタフェースの使用 ■ サーバー環境の設定 ■ サーバーインスタンスの使用 ■ サーバーアクティビティの監視およびログ ■ サーバー保護のための証明書および公開鍵暗号の使用 ■ サーバー保護のためのアクセス制御の設定 ■ Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE プラットフォーム) のセキュリティー機能の使用 ■ アプリケーションの配備 ■ 仮想サーバーの管理 ■ パフォーマンスニーズに合わせたサーバー作業負荷の定義およびシステムのサイズ決定 ■ サーバードキュメントのコンテンツと属性の検索、およびテキスト検索インタフェースの作成 ■ コンテンツ圧縮のためのサーバー設定 ■ WebDAV を使用した Web 発行およびコンテンツオーサリングのためのサーバー設定 	
以下を実行するためのプログラミングテクノロジーおよび API の使用	『Programmer's Guide』
<ul style="list-style-type: none"> ■ Web Server の拡張および変更 ■ クライアントの要求に応じたコンテンツの動的生成 ■ サーバーのコンテンツの変更 	
カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) プラグインの作成	『NSAPI Programmer's Guide』
Web Server におけるサーブレットおよび JavaServer Pages (JSP) テクノロジーの実装	『Programmer's Guide to Web Applications』
設定ファイルの編集	『Administrator's Configuration File Reference』
パフォーマンス最適化のための Web Server のチューニング	『パフォーマンスのチューニング、サイジング、およびスケールリング』

3.1 6.1 SP12 のマニュアルに対する修正と更新

次の節では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP12 のマニュアルに加えられた修正と更新について説明します。

- [HTTP ヘッダー名での大文字と小文字の区別に関する新しい情報](#)
- [「Setting Access Rights」の無関係な情報](#)
- [net_read\(\) の戻り値に関する誤った情報](#)
- [PathCheck フロー制御に関する誤った情報](#)
- [schedulerd 制御デーモンの停止に関する誤った指示](#)

3.1.1 HTTP ヘッダ一名での大文字と小文字の区別に関する新しい情報

HTTP/1.1 規格 (<http://www.ietf.org/rfc/rfc2616.txt>) の 4.2 節には、HTTP ヘッダ一名で大文字と小文字は区別されないと述べられています。ヘッダ一名を処理するとき、Web Server 6.1 は名前をすべて小文字に変換します。

3.1.2 「Setting Access Rights」の無関係な情報

『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Guide』の「Setting Access Rights」の節に、次のような注があります。この注は不正確なので、無視するようにしてください。

注： 次のメソッドはコード内には存在しますが、上記のマニュアルには含まれていません。revlog、getattribute、getattributename、getproperties、startrev、stoprev、edit、unedit、save、setattribute、revadd、revlabel、および destroy。

3.1.3 net_read() の戻り値に関する誤った情報

『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 NSAPI Programmer's Guide』の「net_read」の節で、net_read() 関数の戻り値に関する情報が誤っています。正しい情報は次のとおりです。

戻り値

読み取られたバイト数。最大サイズ sz を超えることはありません。エラーが発生した場合は負の値が返されます。この場合、操作が完了する前に timeout 秒が経過したときは、errno は定数 ETIMEDOUT に設定されます。

読み取られたバイト数。最大サイズ sz を超えることはありません。エラーが発生した場合は負の値が返されます。この場合、errno は次のいずれかの定数に設定されます。

- 読み取り操作が完了する前に timeout 秒が経過した場合は ETIMEDOUT。
- ソケット記述子で非ブロック入出力が有効になっているときに、ソケットが一時的に使用不可であった場合は EAGAIN。
- ソケット記述子で非ブロック入出力が有効になっているときに、読み取り操作がブロックしたであろう場合は EWOULDBLOCK。

3.1.4 PathCheck フロー制御に関する誤った情報

『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 NSAPI Programmer's Guide』の「PathCheck」の節に、誤った情報が含まれています。

誤：

NameTrans 指令によって割り当てられた名前または生成された物理パス名が、別のオブジェクトの name 属性または ppath 属性に一致する場合、サーバーはデフォルトオブジェクトの指令を適用する前に、まず一致しているオブジェクトの PathCheck 指令を適用します。

正：

NameTrans 指令によって割り当てられた名前または生成された物理パス名が、別のオブジェクトの name 属性または ppath 属性に一致する場合、サーバーは一致しているオブジェクトの指令を適用する前に、まずデフォルトオブジェクトの PathCheck 指令を適用します。

3.1.5 schedulerd 制御デーモンの停止に関する誤った指示

『Sun Java System Web Server 6.1 SP12 Administrator's Guide』の「Using Schedulerd Control-based Log Rotation (UNIX/Linux)」の節で、schedulerd 制御デーモンの停止に関する情報が誤っています。

誤:

```
export PID_FILE=/opt/SUNWwbsvr/https-admserv/logs/scheduler.pid
kill -9 -`cat $PID_FILE`
    - rm $PID_FILE
```

正:

```
export PID_FILE=/opt/SUNWwbsvr/https-admserv/logs/scheduler.pid
kill -9 `cat $PID_FILE`
    rm $PID_FILE
```

3.2 ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Oracle Web サイトには、次の追加リソースに関する情報が用意されています。

- ドキュメント: <http://www.oracle.com/technetwork/jp/documentation/index.html>
- サポート: <http://support.oracle.com/>
- トレーニング: http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=315

Oracle iPlanet Web Server 6.1 の過去のリリースの機能と拡張機能

Oracle iPlanet Web Server 6.1 の SP12 より前のサービスパックリリースで提供された機能および拡張機能については、各リリースに固有のリリースノートに個別に記載されています。これらは次の場所から入手できます。

<http://download.oracle.com/docs/cd/E19857-01/index-ja.html>

この章では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP12 および SP13 の機能および拡張機能の一覧を示します。

A.1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP14 の機能および拡張機能

この節では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP14 の機能および拡張機能の一覧を示します。

A.1.1 JDK が 1.6.0_24 に更新

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP14 では、製品とともにパッケージ化されている JDK 6 のバージョンが JDK 6 update 24 に変更されています。この変更は、セキュリティの脆弱性 CVE-2010-4476 (「2.2250738585072012e-308」をバイナリ浮動小数点数に変換すると、Java Runtime Environment がハングアップする) に対応するためです。

セキュリティの脆弱性 CVE-2010-4476 の詳細は、次のオラクルセキュリティアラートを参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/topics/security/alert-cve-2010-4476-305811.html>

A.1.2 NSS が 3.12.8 に更新

Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP14 には NSS バージョン 3.12.8 が統合されています。

このバージョンでの変更点については、次の NSS 3.12.8 リリースノートを参照してください。

https://developer.mozilla.org/en/NSS_3.12.8_release_notes

A.2 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP13 の機能および拡張機能

この節では、Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP13 の機能および拡張機能の一覧を示します。

- [NSS および NSPR のバージョン更新による SSL/TLS の脆弱性の解決](#)

- HTTP 応答分割および XSS の脆弱性の解決
- JDK のバージョン更新
- CSR での 2048 ビットキーサイズのサポート
- CSR の暗号化モジュールがデフォルトで「内部」に設定される
- 管理 GUI の Verisign 証明書オプションの削除
- マニュアルの修正と更新

A.2.1 NSS および NSPR のバージョン更新による SSL/TLS の脆弱性の解決

Web Server 6.1 SP12 に含まれていた NSS 3.12.5 では、SSL/TLS 再ネゴシエーション時の脆弱性という問題 (CVE-2009-3555) を軽減していましたが、解決はできていませんでした (<http://web.nvd.nist.gov/view/vuln/detail?vulnId=CVE-2009-3555> 参照)。また、Web Server 6.1 SP12 では、Web Server を攻撃から保護するために SSL/TLS 再ネゴシエーションのすべての使用が無効になっていました。クライアントまたは Web Server のどちらかが既存の SSL/TLS セッションで再ネゴシエーションをトリガーしようとする、接続は失敗しました。

Web Server 6.1 SP13 では NSS 3.12.7 を含み、SSL/TLS の再ネゴシエーションを安全に実行できるため、CVE-2009-3555 の問題は解決されました。この結果、Web Server 6.1 SP13 では SSL/TLS 再ネゴシエーションを再び使用できるようになりました。Web Server 6.1 SP13 での NSS および NSPR のサポートの詳細については、[第 1.5.13 節「NSS および NSPR のサポート」](#) を参照してください。

A.2.2 HTTP 応答分割および XSS の脆弱性の解決

問題 6957507 で報告されたとおり、以前の Web Server 6.1 バージョンには HTTP 応答分割および XSS の脆弱性が発見されていました。Web Server 6.1 SP13 ではこの脆弱性が修正されています。

A.2.3 JDK のバージョン更新

Web Server 6.1 SP13 には JDK 1.6.0_21 が含まれています。

A.2.4 CSR での 2048 ビットキーサイズのサポート

問題 6951364 への対応として、Web Server 6.1 SP13 の管理 GUI では、「セキュリティー」⇒「証明書の要求」を使用して CSR (証明書署名要求) を生成するときに 2048 ビットのキーサイズを指定できます。

A.2.5 CSR の暗号化モジュールがデフォルトで「内部」に設定される

問題 6922063 への対応として、Web Server 6.1 SP13 では、管理 GUI で「セキュリティー」⇒「証明書の要求」を選択したときに「暗号化モジュール」のデフォルト値が「内部」になります。また、「NSS 汎用暗号化サービス」は削除されています。

A.2.6 管理 GUI の Verisign 証明書オプションの削除

問題 6972686 への対応として、管理 GUI の「セキュリティー」タブから「Request Verisign Certificate」コマンドと「Install Verisign Certificate」コマンドが削除されました。

A.2.7 マニュアルの修正と更新

次に示すマニュアルの問題に対処するために、第 3.1 節「6.1 SP12 のマニュアルに対する修正と更新」が更新されました。

問題 ID	説明
6938886	「Setting Access Rights」で、使用可能なメソッドに関する誤った情報を削除する必要があります。
6940796	net_read は、タイムアウトしたときに errno に EAGAIN を設定できます。
6966631	PathCheck の文が正しくありません。
6973013	Web 6.1 ドキュメントバグ: コマンド行からの schedulerd の停止に関して「- rm \$PID_FILE」の「-」を削除する必要があります
6977268	Web 6.1 および 7.0 ドキュメント RFE: すべての要求ヘッダー名が小文字で返されます

A.3 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP12 の機能および拡張機能

- Solaris、Linux および Windows プラットフォームで、Web Server 6.1 SP12 に JDK 1.6.0_17 が含まれています。Web Server 6.1 SP12 は、下位互換性のために JDK 5 を引き続きサポートします。
- このリリースでは、セキュリティーの脆弱性に関連したバグを含む重要なバグが修正されています。
 - Bug 6916390 では、Web Server の WebDAV 拡張機能に存在する形式文字列の脆弱性について説明します。これらの問題により、リモートクライアントが Web Server のクラッシュを発生させ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。また、これらの問題により、リモートの無許可ユーザーが昇格した特権を獲得し、機密情報を含むファイルにアクセスして変更を加えることができる可能性があります。
 - Bug 6916391 では、Web Server のダイジェスト認証方法で起きるバッファオーバーフローの問題について説明します。この問題により、リモートの無許可ユーザーが Web サーバーをクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。これらの問題が原因となって、昇格した特権で任意のコードが実行されてしまう可能性もあります。
 - Bug 6916392 では、Web Server の HTTP TRACE 機能で起きるヒープオーバーフローの問題について説明します。この問題により、リモートの無許可ユーザーが Web サーバーをクラッシュさせ、サービス拒否 (DoS) の状況を作り出すことができる可能性があります。これらの問題が悪用され、機密情報への無許可アクセスを許してしまう可能性もあります。
- **SSL/TLS の脆弱性の修正 (CVE-2009-3555)**

Web Server 6.1 SP12 には SSL/TLS の再ネゴシエーションに関する脆弱性 (<http://web.nvd.nist.gov/view/vuln/detail?vulnId=CVE-2009-3555> 参照) を軽減する NSS 3.12.5 が含まれています。

この脆弱性は、現在の SSL/TLS 再ネゴシエーションプロトコル定義の不備によるものです。Web Server 実装のバグではありません。そのような理由により、この脆弱性に対する実装レベルの修正は提供されません。Web Server を攻撃から守るための唯一の回避方法は、再ネゴシエーションを完全に無効化することです。

したがって、Web Server 6.1 SP12 では SSL/TLS 再ネゴシエーションのすべての使用が無効になっています。クライアントまたは Web Server のどちらかが既存の SSL/TLS セッションで再ネゴシエーションをトリガーしようとする、接続は失敗します。

一般的に再ネゴシエーションは、SSL/TLS 接続が最初に確立されたあと、しばらく時間がたってからクライアント証明書を取得する際に使用されていました。現在では、Web アプリケーションがこの方法でクライアント証明書を取得しようとしても失敗します。

初期の接続ハンドシェークの間にクライアント証明書を取得する処理は、現在も正常に機能します。このモードは、server.xml で client-auth 要素を「required」に設定することによって設定できます。

```
<http-listener>
  <ssl>
    <client-auth>required</client-auth>
  </ssl>
</http-listener>
```

Oracle iPlanet Web Server 6.1 の以前のリリースで解決済みの問題

この節では、以前の Oracle iPlanet Web Server 6.1 リリースで修正されたもっとも重要な問題の一覧を示します。

- [6.1 SP14](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP13](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP12](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP11](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP10](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP9](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP8](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP7](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP6](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP5](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP4](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP3](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP2](#) において解決済みの問題
- [6.1 SP1](#) において解決済みの問題
- [6.1](#) において解決済みの問題
- [6.1 マニュアル](#) において解決済みの問題

B.1 6.1 SP14 において解決済みの問題

次の表では、6.1 SP14 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-1 Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 で解決された問題

問題 ID	説明
7001814	ACL に IP アドレスが含まれている場合に関数 LSIpEval でクラッシュする
7015519	ログローテーション後もディスク容量が回収されない
7018896	Web Server 6.1.14 に JDK 6 Update 24 がバンドルされていない

表 B-1 (続き) Oracle iPlanet Web Server 6.1 SP15 で解決された問題

問題 ID	説明
7022039	Web サーバーに新しいセキュリティコンポーネント SECURITY_3.12.8_20100916 を統合

B.2 6.1 SP13 において解決済みの問題

次の表に、6.1 SP13 で解決された問題の一覧を示します。

表 B-2 6.1 SP13 において解決済みの問題

問題 ID	説明
6911800	flexanlg がユーザーに対して機能しません (-t u フラグおよびその関連) -- WEB SERVER 6.1 SP11。
6912766	新しい「安全な」TLS 再ネゴシエーションプロトコルのサポート
6922063	Web 6.1SP12 管理 GUI のデフォルトのセキュリティ暗号化モジュールを「NSS 汎用暗号化サービス」にするべきではありません
6934831	システムエラー: 管理 GUI から特定の CA を表示したときに証明書がポップアップで表示されません
6951364	2048 ビットのキーサイズによる CSR の生成を Web Server 6.1 で正式にサポートすべきです
6957507	Sun Java System Web Server での応答分割および XSS
6962682	Solaris JES#4 パッチ: checkinstall スクリプトは誤って PATCHLIST のみを参照しています
6972686	「Request Verisign Certificate」機能がありません。GUI から削除する必要があります。
6973109	ws6.1sp13 に最新の JDK 1.6.0_21 をバンドルしてください
6973383	製品の配布形式を .tar.gz から zip に変更してください。

B.3 6.1 SP12 において解決済みの問題

次の表では、Web Server 6.1 SP12 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-3 Web Server 6.1 SP12 において解決された問題

問題 ID	説明
6898371	TLS/SSL プロトコルの重大な脆弱性により NSS のアップグレードが必要。
6916391	ダイジェスト認証のバッファオーバーフロー。
6916392	(「A:」のように) 1 文字で値のない要求ヘッダー名が TRACE メソッドに含まれる場合、バッファオーバーフローが発生する。
6916390	WebDAV 形式文字列が原因で Web Server がクラッシュする。
6860680	ファイル拡張子の末尾に「:;\$DATA」を追加すると、JSP ページの内容が公開されてしまう。
6869988	Web Server 6.1 で、JDK が含まれるすべての箇所で JDK5 ではなく JDK6 が含まれるべきである。
6774064	Web Server は NSS 3.12.5.0 を使用するべきである。
6882816	Web Server 6.1 SP 11 逆プロキシプラグインが、POST エンティティ本体なしで POST 要求を再試行する。

表 B-3 (続き) Web Server 6.1 SP12 において解決された問題

問題 ID	説明
6917879	ヘッダー名が空の TRACE 要求が原因で、不正な形式の応答が生成される。
6387189	配備されたモジュールでの Java のロギングの問題。
6837931	HTTP4352: zlib internal error. Return code from zlib is -5 Web Server 6.1 のバグ 6358858 の修正が不完全なことにより上記のエラーが表示される。
6214575	すべてのアクセス権が拒否されたときに Web Server が認証用ダイアログを表示すべきではない。
6372223	Web Server 6.1SP5 Point Product で「スタート」、「Sun ONE Web Server」、「リリースノート」の順に選択してもリリースノートを開けない。
6857848	ユーザーが Firefox で ACL を構成しようとしたときに送信ボタンが表示されない。そのため、ユーザーは Firefox で ACL を構成できない。

B.4 6.1 SP11 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP11 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-4 Web Server 6.1 SP11 において解決された問題

問題 ID	説明
6748621	正しくない、または存在しない dtd ファイルが conf_bk/server.xml ファイルで参照されたときに、管理サーバーの GUI インデックス cgi ファイルがクラッシュする。
4917844	管理サーバーで CSR の署名中にハッシュアルゴリズムの選択を許可すべきである。
6795558	特定の構成で Web Server 6.1 が起動に失敗する。
6754095	502 Gateway エラーの発生時に逆プロキシプラグインがクエリー文字列の Javascript POPUP を実行し、潜在的な XSS 脆弱性につながる。
6571031	クライアントの write() が EPIPE で失敗したあとに逆プロキシプラグインが処理を中止すべきである。
6659522	検索文字列にハイフンが含まれる場合に検索機能が予期しない結果を返す。
6633181	SimpleDateFormat が Web コード内で正しく同期されないため、Java の例外が Web エラーログに記録される。
6707244	ロガーを含む Web アプリケーションの配備中に JVM で競合状態が発生する。
6767285	reuseSessionID は IWSSessionManager で機能しないが、StandardManager では機能する。
6815821	サーバーが起動中に次の例外をスローする。 javax.naming.NamingException: WEB3886: Context is read only
6781962	Internet Explorer 7 で Web Server 6.1 の favicon が歪んで見える。

B.5 6.1 SP10 において解決済みの問題

次の表では、Web Server 6.1 SP10 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-5 Web Server 6.1 SP10 において解決された問題

問題 ID	説明
6608135	HTML ドキュメントのタイトルに A & B などの文字が含まれている場合、検索に失敗し、エラーが発生する。
6684388	現在、Solaris、Windows、および Linux プラットフォームでは、JDK 1.4.2 が Web Server 6.1 にバンドルされている。JDK 1.4.2 はサポート中止のため、バンドルされた JDK を最新の JDK 1.5.x にアップグレードする必要がある。
6705396	NSS パッチ 119209-17 を最初に適用していない場合、最新パッチ 116648-21 を Web Server 6.1 SP9 に適用すると、管理セキュリティプログラムが動作しなくなる。
6699747	インデックスの付いたドキュメントにタイトルがない場合、検索結果ページで検索文字列が強調表示されない。
6715380	最新の NSS/NSPR バージョンを Web Server 6.1 SP10 に統合する。
6673647	Web Server 6.1 のスケジューラベースの cron ログローテーションが土曜日の夜に停止する。
6714929	Solaris 10 でデフォルトの tcp_hiwat 設定を使用すると、SNMP が壊れる。
6702639	1 つの仮想クラスで .htaccess を無効にすると、.htaccess を持つその他の仮想クラスも失敗する。
6679398	ブラウザから gzip で圧縮された結果を要求した際に、サーバーレットキャッシュフィルタ経由で応答が送信されると、データが圧縮されていても、圧縮されなかった旨が応答ヘッダーに示され、ブラウザが失敗する。
6537458	クライアントタグを使用するときの ACL 評価が、要求の順序によって異なる。
6671965	送信されるコンテンツの圧縮に使用されるフィルタ「http-compression」の説明が『Web Server 6.1, Administrator's Configuration File Reference Guide』に記載されていない。
6606392	Unix と Windows で、filebuf_open_nostat () の動作が異なる。Windows では、ファイルサイズが 0 の場合に filebuf_open_nostat () が壊れるが、Unix では動作する。
6729600	Web Server 6.1 SP10 へのアップグレードで、Nutch フィルタ関連の詳細用の searchadmin スクリプトの更新に失敗する。

B.6 6.1 SP9 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP9 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-6 Web Server 6.1 SP9 において解決された問題

問題 ID	説明
6295325	<p>Web サーバーは LDAP 接続プール用のタイムアウトパラメータを実装すべきである。</p> <p>LDAP 認証を使用する場合、ldapsession bind および ldap search の実行時に LDAP サーバーの応答がないと、Web サーバーが応答しません。server_root/userdb/dbswitch.conf ファイルにタイムアウト値を秒単位で設定すると、応答しない Web サーバーが停止するとともに、LDAP サーバーからの応答の待機も停止します。デフォルトでは、タイムアウトは設定されていません。</p> <p>dbswitch.conf の例：</p> <pre>default:binddn cn=Directory Manager default:encoded bindpw YWRtaW5hZG1pbG== default:timeout 60</pre>
6370259	FastCGI のシャットダウンが正しく実行されない。
6442778	サーブレット /JSP 内の setContentLength(0) が、値が 0 より大きい場合に動作しない。
6471213	タイムアウト時に不正なエラーメッセージが表示される。
6504581	ldap_result() が原因で、LDAP セッションでメモリーリークが発生する。
6509590	ログレベルに適切なメッセージが表示されない。
6510001	web.xml 内の session-timeout 値が sun-web.xml の timeout 値よりも優先されない。
6540788	有効期間が 99 年の SSL サーバー証明書をインストールできない。
6540817	Web Server 6.1 が Windows 2003 SP2 および R2 でサポートされない。
6542731	Java ES 4 で Web Server 6.1 scheduler を実行できない。
6553963	特定の PDF ファイルが検索エンジンにより認識されない。
6563615	分散管理の設定時に Web サーバーがセキュリティー保護された LDAP サーバーへの匿名バインドを使用する。
6579852	Web サーバーのインストールに JDK の最適化されたデバッグバイナリが含まれる。
6581407	Restricting Access to a File Type 機能では、該当する obj.conf ファイルが変更されない。
6590893	スタンドアロンの Web サーバーの場合、Java ES がインストールされた Web サーバーからのアップグレードかどうかを認識し、ユーザーに警告メッセージを表示すべきである。
6591471	Java がグローバルに無効に設定されている場合、errorlog ファイル内にサーバーのシャットダウンメッセージが存在しない。
6592886	JDBC プールモニターの QueueSize に負の数値が表示される。
6598092	invoker サーブレットを使用している場合、RequestDispatcher を使用した初回転送に失敗する。
6603070	一重引用符または二重引用符で囲まれた文字列の Cookie 値が正しく処理されない。
6603088	LDAP 検索でクラッシュが発生する。
6609457	Web サーバーのインストール後スクリプトにより ABE case が正しく処理されない。
6620677	起動スクリプトにより、Solaris 9 に読み込む libmtdmalloc の正しい値が計算されない。
6628376	スケジューラの停止時に scheduler.pid ファイルが削除されるべきである。

表 B-6 (続き) Web Server 6.1 SP9 において解決された問題

問題 ID	説明
6628914	/usr/dist/share ディレクトリから Sun Studio 10 を削除すると、Solaris Sparc 8、9、および 10 でビルド時に障害が発生する。
6630037	Cron ログのローテーションが行われるときに、インスタンス名および別のインスタンス名の一部の文字列を使って無効なログアーカイブが作成される。
6638185	検索にクロスサイトスクリプティングの脆弱性が存在する。
6643558	client-ip タグに適切な説明および例を入力する必要がある。
6647151	詳細検索にクロスサイトスクリプティングの脆弱性が存在する。
6619655	逆プロキシプラグインのドキュメントに、Application Server をサポートしていることを記載すべきである。
6514004	HTTP PUT および DELETE を無効にする手順が記載されていない。
6582644	LDAP 認証で新しいタイムアウトパラメータを使用することについての説明をリリースノートに記載すべきである。
6663921	AIX 上でサーバーが起動したあとに、Web サーバーの起動スクリプトがプロンプトモードを返さない。詳細は、第 1.4.1.3 節「AIX 5.3 Technology Level 6 SP5 のパッチ」および第 1.4.1.4 節「AIX 5.3 Technology Level 7 SP2 のパッチ」を参照してください
6667638	製品に付属のインストールガイドに正しい JDK のバージョンを記載する。
6435723	逆プロキシプラグインでの高い CPU 使用率 - DaemonChannel::unchunk()

B.7 6.1 SP8 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP8 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-7 Web Server 6.1 SP8 において解決された問題

問題 ID	説明
4737204	wdeploy delete コマンドがシンボリックリンクに従い、シンボリックリンクによって示されるディレクトリとそのコンテンツを削除する。
6152655	Web アプリケーションのフォームベース認証により、セッションがアクティブであるにもかかわらず、ユーザーが予想外にログアウトされる。
6235473	WebDAV を使用して作成されたディレクトリの権限を変更できる必要がある。
6319312	FastCGI Authorizer アプリケーションに要求を送信したあとにインスタンスが停止すると、Fastcgistub がコアをダンプする。
6343584	NSS スレッドが所有するロックを待機するデッドロック状態のスレッドにより、Web サーバーがハングする。
6379347	Access Manager を Web サーバーに配備する場合に、すべてのバージョンの Web Server 6.1 が読み込み時にクラッシュする。
6497690	Web Server 検索用 Web アプリケーションで、完全 URL または相対 URL/URI の使用を選択できる必要がある。
6508015	getParameterNames() が、クエリー文字列にパラメータ化されていない名前を返さない。
6509623	(Windows XP および Windows 2003): 「スタート」->「プログラム」->「Sun ONE Web Server」->「リリースノート」リンクをクリックして、Web Server 6.1 SP7 リリースノートを開くことができない。
6513358	Web サーバーの逆プロキシプラグインがチャンクデータを処理していない。

表 B-7 (続き) Web Server 6.1 SP8 において解決された問題

問題 ID	説明
6519021	管理サーバーによって生成された、新しい仮想サーバークラスの obj.conf ファイルにエラーが含まれている。
6519551	JDBC 接続プール機能の問題。
6519839	Web サーバーのリダイレクト機能に関する脆弱性。
6520528	リダイレクト URL の先頭がスラッシュ (/) でない場合に発生する response.sendRedirect() エラー。
6526460	Web Server 6.1 SP7 での LDAP 接続障害エラー。
6531111	htaccess AuthGroupFile は空のファイルを、指令が指定されていないファイルと同等にサポートすべきである。
6532218	T2000 システムで Web Server 6.1 SP7 が libxerces-c.so においてクラッシュする。
6534216	Web Server 6.1 SP8 の README、バージョン文字列、およびライセンスファイルの更新。
6540248	Web Server 6.1 SP8 と NSS 3.11.6 および NSPR 4.6.6 との統合。
6546233	SP8 のリリース番号およびバージョン番号での RPM 仕様ファイルと pkginfo ファイルの更新。
6566204	UTF-7 のクロスサイトスクリプティングの脆弱性。
6567841	フォーム認証バイパスおよび JSP ソースコード開示による脆弱性。
6574379	Web Server 6.1 のブラウザサポートに Internet Explorer 7 が含まれるべきである。

B.8 6.1 SP7 において解決済みの問題

次の表では、Web Server 6.1 SP7 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-8 Web Server 6.1 SP7 において解決された問題

問題 ID	説明
4856895	UNIX: 複数の CPU のあるマシン上でサーバーのシャットダウン中にウォッチドッグプロセスがクラッシュする。
6158040	4.1 から 6.1 への移行中に server.xml ファイル内に JAVA パラメータが見つからない。
6206179	2 つのスケジュールされたローテーション間でシステム時間が変更されると、内部ログのローテーションがファイルのローテーションを 2 回行います。
6213097	4.1 から 6.0 への移行中に、JES3 上で ktsearch.jar が正しく移行されない。
6276594	要求本文に Transfer-encoding: chunked ヘッダーを付けて送信すると PUT 要求に失敗する。
6292582	SNMP マネージャーから照会された場合に、iws.mib の一部である SNMP MIB の「システムメモリー内のプロセスメモリーの割合」が間違った結果を生じる。
6315783	フランス語ロケールで、検索 ページのオンラインヘルプリンクが英語のページにリンクしている。
6348395	IWSsessionManager が使用されている場合、セッションを無効化すると HttpSessionListener の sessionDestroyed() が呼び出されない。
6350502	Pragma とキャッシュ制御ヘッダーが相互運用性の問題を引き起こす。
6358858	zlib ライブラリに内部エラーが発生する。

表 B-8 (続き) Web Server 6.1 SP7 において解決された問題

問題 ID	説明
6367672	MaxProcs が 1 より大きい場合に再起動スクリプトが失敗する。
6376035	jstl タグを含む JSP ファイルを正常に実行するよう Web Server を構成できない。
6376082	Application Server 製品との互換性のため Web アプリケーションでルックアップのために JNDI の単純名をサポートする必要がある。
6380777	管理 GUI で magnus-internal/cgi に pl というファイルサフィックスを追加できない。
6381747	セッション属性が HttpSessionBindingListener を実装すると、セッションオブジェクトがアクセスしているかに関係なくセッションタイムアウト時間が過ぎるとセッションが期限切れになる。
6382704	Monitor Web Server Statistics オプションが無効な場合でも管理サーバーがサーバー統計を監視する。
6384456	Web アプリケーションがオブジェクトを不適切に使用しようとすると、Web サーバーがクラッシュする。
6384640	同時再起動要求によって Web サーバーのプロセスが強制終了する。
6388092	/ns-icons ディレクトリに保存されている画像が Internet Explorer に正しく表示されない。
6388766	Windows: 新しい CGI シェルディレクトリが作成または編集される場合、日本語のバックslash記号「¥」(円)の処理が異なる。
6392159	再起動スクリプトで Web サーバーを間欠的に再起動できず、Web サーバーがハングアップする。
6392644	Web Server 6.0 SP10 と Web Server 6.1 SP5 の Readme ファイルの URL が間違っている。
6400307	変数を追加すると、管理 GUI のクラスタ制御機能がハングする。
6418529	検索ページのコンテンツに英語と他の言語が混在している。
6421617	サーバーにより解析される HTML とグループオプションが制限された .htaccess の問題。
6426382	net_write SAF の値が HTTP 圧縮のフラグメントサイズの 3 倍以上の場合、net_flush 呼び出しがすべてのデータをフラッシュしない。
6428199	メンバーのユーザー ID が「,」(コンマ)を含むユーザーグループに属している場合、検索フィルタに失敗する。
6428403	サブレットフィルタが追加データをコアによって生成された応答の本文に追加した場合、追加データのサイズが元の応答の本文より大きいとサーバーがクラッシュする場合がある。
6429293	Web Server 6.1 サンプルアプリケーションでのセキュリティの脆弱性。
6433752	ssl-check 機能が NSAPI ベースのプラグインで機能しない。
6436535	接続が接続キューにある場合、サーバーが停止時または再起動時にハングアップする。
6437635	特定の状況下での無効になったクライアント証明書と CRL ファイルの問題。
6438408	SNMP プロセスが接続要求のたびにメモリーをリークする。
6439519	ObjectType fn="force-type" 指示が obj.conf ファイルから削除されると、複数バイト範囲に対して要求が行われた場合にサーバーがクラッシュする場合がある。
6441402	Web Server 6.1 SP5 (64 ビット) バージョンで LDAP サーバーの構成に失敗する。
6442651	Web アプリケーションへの URL に URI パラメータが含まれている場合に、再帰的なリダイレクトが行われる。

表 B-8 (続き) Web Server 6.1 SP7 において解決された問題

問題 ID	説明
6448255	Windows: 特定の状況下でファイルハンドルが <code>webservd</code> プロセスによって解放されない。
6451182	Web Server 6.1SP6 で <code>parseParameters()</code> の CPU 使用率が高い。
6455812	一部の <code>magnus.conf</code> 指示の処理におけるスレッドの安全性の問題によって特定の構成が起動時にクラッシュする。
6458771	<code>./stop</code> が完了する前に、 <code>/start</code> が実行されると、 <code>watchdog</code> がクラッシュする可能性がある。
6465691	<code><jsp:include></code> でのタイトルのある HTML ページの表示エラー。
6471388	Windows: ドキュメントディレクトリとして隠し共有ネットワークドライブを使用すると、 <code>Not Found</code> エラーが発生する。
6473494	NSS での署名 <code>DigestInfo</code> 解析問題。
6477953	Windows: Web Server (スタンドアロン) が NSPR/NSS ビットを変更するため FIPS モードが壊れる。
6477981	<code>.chk</code> ファイルが見つからないため、Web Server (スタンドアロン) で FIPS140 モードが壊れる。
6478972	Web Server 6.1SP6 に付属の JDK は 2007 年のサマータイム (DST) の変更と互換性がない。
6480026	一部のキーブアライブ接続が特定の時間後に終了しない。
6482272	Web サーバーインスタンスの動作状態が変わった場合に、SNMP マスターエージェントがトラップを送信しない。
6482560	HP-UX: 1.4.2.09 + および 1.5.0.3+ JVM があると Web Server がクラッシュする。
6488468	HP-UX: Web Server 用のパッケージされた JDK を削除する。
6489275	FIPS 140-2 準拠のために Web Server 6.1 を最新の NSS バージョンと統合すべきである。
6494886	短い待ち時間 / 高い並行性モードが動的に切り替えられない場合がある。
6496892	AIX: Web Server 用のパッケージされた JDK を削除する。
6507264	デフォルトログレベルが <code>info</code> に設定されている場合、サーバーの起動時により詳細なログメッセージが表示され続ける。
6508092	高速サイレントモードでインストールすると HP-UX プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP7 でサーバーの起動に失敗する。
6510957	Solaris の <code>pkginfo</code> ファイルと RPM 仕様ファイルが古いサービスパック (SP5) を指定する。

B.9 6.1 SP6 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP6 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-9 Web Server 6.1 SP6 において解決された問題

問題 ID	説明
5027774	Solaris で設定内の <code>WW_umask</code> が NULL である。

表 B-9 (続き) Web Server 6.1 SP6 において解決された問題

問題 ID	説明
6334248 6397340	<p>Windows 2003 でマップされたネットワークドライブをドキュメントルートディレクトリとして読み込めない。</p> <p>追加情報: 共有のネットワークリソースにあるドキュメントルートを使用するには、UNC パスを使用する必要があります。たとえば、// マシン名 / 共有フォルダ名のようになります。X: などのマップされたドライブ文字は、ドキュメントルートとして機能しません。ドキュメントルートは、server.xml に手作業で指定するか、管理 GUI で「Virtual Server Class」->「Content Management」->「Primary Content Directory」の順に選択して指定できます。</p> <p>UNIX 上の共有ディレクトリを使用する場合は、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web Server のインストールされている Windows マシン上に SFU (Windows Services for UNIX) をインストールします。 2. 「スタート」メニューにある SFU ユーザーインターフェースのショートカットを使用して、Windows のユーザーおよびグループを UNIX のユーザーおよびグループにマップします。 <p>注: Web サーバーの稼働中に、ユーザー名マッピングサービス (SFU の一部) を実行する必要があります。</p> <p>別の Windows マシンから共有ディレクトリを使用する場合は、両方のマシンの管理者アカウントのパスワードが同じであることを確認します。同じでない場合、サービスがネットワークリソースにアクセスできません。</p> <p>共有ディレクトリが UNIX 上にあるか Windows 上にあるかにかかわらず、インスタンスサーバーを表すサービスは、デフォルトのローカルシステムアカウント上で実行するのではなく、/Administrator などの管理グループの特定のユーザーとして実行する必要があります。このためには、「コントロールパネル」->「管理ツール」->「サービス」の順に選択し、「プロパティ」ダイアログボックス内の設定を変更します。</p>
6384651	HP-UX: Web Server が誤った last-modified ヘッダーや date ヘッダーを返すことがある。
6404983	管理 GUI を使用して LDAP サーバーからユーザーおよびグループを検索すると失敗する。
6316387	if-unmodified-since ヘッダーの処理時に、Web Server が誤ったロジックを使用する。
6318003	if-unmodified-since および range を使用した要求に対して、Web Server はコード 412 で実際の内容を返す。
6312702	HttpServletResponse.reset () が想定どおりに動作しない。
6360180	webapps/qa_app/jsp/encodedurlforwarder でクラッシュする。

表 B-9 (続き) Web Server 6.1 SP6 において解決された問題

問題 ID	説明
6316881	<p><code>req.getHeader()</code> でヘッダー内のマルチバイト文字を取得できない。</p> <p>回避方法:</p> <p>デフォルトでは、要求ヘッダーは UTF-8 enc を使用してエンコードされます。要求ヘッダーは、Web アプリケーションレベルでエンコードしてカスタマイズできます。次の手順で行ないます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web アプリケーションの <code>sun-web.xml</code> で、設定パラメータ <code>use-requestenc-for-headers</code> を任意の値 (<code>yes</code>、<code>true</code>、<code>on</code> など) に設定します。 <p>以下の例では、Web アプリケーションで要求ヘッダーのエンコーディングが有効になっています。</p> <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"> <property name="use-requestenc-for-headers" value="true" > <session-config> <session-manager> </session-config> <jsp-config> </sun-web-app></pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. <code>request.setCharacterEncoding()</code> を使用して、アプリケーション (JSP またはサーブレット) の文字エンコーディングの名前を設定します。
6318406	Web アプリケーションを再配備すると、ファイルの所有権が変更される。
6294743	JSP 検索コレクションを更新すると、ディスク領域がいっぱいになるまで、変換後のディレクトリに新しい tmp ファイルが作成される。
6197731	管理サーバーにアクセスするときに発生する内部エラー。
6316262	管理 GUI はアクセスログパスの変更を反映しない。
6378521	6.1 の makefile では、クリーンアップが必要。
6318200	インストーラのエラーメッセージをフォーマット中にバッファーがオーバーフロー。
6343584	NSS ブロックにより、keepalive サブシステムでデッドロックが発生する。
6326965	<p>管理パスワードが誰でも読み込み可能なファイルにプレーンテキストで格納される。</p> <p>回避方法: 回避方法は 2 つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ファイル <code>.adminpasswd</code> を手動で削除します。 ■ <code>.adminpasswd</code> ファイルのアクセス権を 400 に変更します。
6356179	<p>Web Server 6.1 の管理サーバーが USERDB タグの <code>id</code> 属性を変更しない。</p> <p>追加情報: USERDB タグの <code>id</code> 属性を変更するには、次のどちらかの手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想サーバークラスファイルを 1 つ作成します。このクラスファイルを使用して、複数の仮想サーバーを作成してください。この場合、VS Class で定義される設定のほとんどは、すべての仮想サーバーに継承されます。 ■ 1 つのサーバーインスタンス (<code>https-localhost</code>) 内で複数の仮想サーバークラスを作成します。それぞれの仮想サーバークラスファイルには 1 つ以上の仮想サーバーを含めることができます。
6333656	Web Server バイナリの MIME タイプファイルに StarSuite または OpenOffice の MIME タイプを設定する必要がある。

表 B-9 (続き) Web Server 6.1 SP6 において解決された問題

問題 ID	説明
6342394	Windows の cron ログのローテーションにより、特定のインスタンス名が付いた無効なアーカイブログが作成されることがある。
6358851	SNMP マスターエージェントおよびサブエージェントの起動に失敗する。
6336309	server.xml 内の特殊文字 (&) の書き換えで問題が発生する。
6335483	HP-UX 用にシンボルが有効なビルドを作成する (未ストリップ)。
6332442	Linux で magnus.conf に Init fn="stats-init" が存在すると Web Server がクラッシュする。
4718466	6 番目のキーを暗号化デバイスにインポートすると、Web Server 6.0 で次のエラーが表示される。server not avail
6340799	S1WS6.1SP5 SSL の負荷テストを SUSE Linux Enterprise Server 9 SP2 で行うと、webservd がメモリーリークする。
6353988	Web Server 6.1SP4/SP5 用の一部の組み込み認証局 (CA) で、クライアントの信頼フラグまたはサーバーの信頼フラグを設定できない。
6329109	Web Server 6.1: 同じポートで異なる IP アドレスを使用して実行している複数のインストール環境に対して、ロックファイルが競合する。
6378545	JSP 検索コレクションの更新時に、JSP ファイルを更新するとインデックスの再作成が失敗する。
6280778	Web Server 6.1 検索で、PDF のインデックスを作成できない。このエラーは、OS パッチ PHSS_28871 がインストールされた HP-UX で発生します。
6302377	サブレットコンテナの UTF-8 URI マッピングに脆弱性。
6370089	NSS 3.11.1 と Web Server 6.1 SP6 の統合。
6285129	一部の環境で、jsp:param 値で % を使用するとエラーになる。
6324034	Web Server で、アップロードファイルサイズのデフォルトの制限は 10M バイト。
6361485	Web Server 6.1 SP5 で、ユーザードキュメントディレクトリに対して htaccess が機能しない。
6350122	Windows 上の Web Server 6.1 SP5 の場合 : scheduler.conf ファイル内の文字化けが原因で cron ベースのログローテーションが失敗する。
6388243	Web Server 6.1 SP4 (Windows) に CRL をインストールすると、管理 GUI の CKL セクションに追加される。
6377343	NSS 3.11.1 を使用すると、RFC3280 に述べられた PolicyConstraints のような新しいクリティカルな拡張子の付いた証明書を証明書データベースにインポートできる。
6376634	magnus.conf で SSL3SessionTimeout または SSLSessionTimeout をユーザー定義の値に設定すると、SSL セッションが期待通りにタイムアウトしない。NSS 3.11.1 で magnus.conf 指令 SSL3SessionTimeout および SSLSessionTimeout が修正された。

B.10 6.1 SP5 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP5 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-10 Web Server 6.1 SP5 において解決された問題

問題 ID	説明
6322443	NSFC バッファサイズは設定可能である必要がある (64 ビット)。 追加情報: ファイルの内容をキャッシュミスに転送するために使用するバッファのサイズを設定するには、新しい <code>BufferSize nsfc.conf</code> 指令を使用します。バッファサイズをデフォルトの 8192 バイトから 16384 バイトに増加するために、以下の指令を <code>nsfc.conf</code> に追加できます。 <code>BufferSize=16384</code> バッファサイズを大きくすると、待ち時間およびメモリー利用量は増加しますが、スループットは向上できる場合があります。
6234284	管理パスワードに ;, \$, &, ^, *, (,), , <, >, ', \, ", \ などのシェルメタ文字が含まれる場合に、JES3 Web Server のインストールが失敗するか、コアダンプが出力される。
6232465	HP-UX の Web サーバーのビルドに <code>-N</code> リンカーオプションを含める。
6171389	Keep-Alive を使用すると、最初の HTTP 要求に対してのみ入力フィルタが呼び出される。TCP 接続のその後のすべての要求は、フィルタによって処理されない。
6195820	<code>load-on-startup</code> サブレットにグローバルリソースを使用できない。
5042600	Web Server 6.0 SP7 インスタンスを Web Server 6.1 SP2 に移行できない。
6244615	Web Server の移行で、 <code>RootCerts</code> が正しく更新されない。
6219618	JES Web Server 6.1 SP2 は、検索コレクション作成のための PDF バージョン 1.5 (Acrobat 6.x) ドキュメントの索引化に失敗する。
6239342	デフォルトのエラーページでのクロスサイトスクリプティングの脆弱性。
4879994	SSL: 要求が新しい SSL ハンドシェイクを起動すると、8k を超えるデータが失われる。 追加情報: デフォルトで、Web サーバーは最大 1M バイトのファイルをアップロードできます (クライアント証明書認証がオプションの場合)。1M バイトより大きいファイルをアップロードするには、 <code>magnus.conf</code> ファイルの <code>SSLClientAuthDataLimit</code> の値を増やします。非常に大きなファイルを同時にアップロードすると、Web サーバーが大量のメモリーを消費します。メモリーの使用量を最小限に抑えるには、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none">■ 認証が不要な場合は、認証をオフにします。■ 認証が必要な場合は、<code>obj.conf</code> に <code>require=1</code> を設定して、必須にします。 <code>PathCheck fn="get-client-cert" dorequest="1" require="1"</code>
6229472	<code>.htaccess</code> 指令が壊れている。
6170938	ユーザードキュメントディレクトリに対して、 <code>acceptlanguage</code> が機能しない。
6180991	2G バイトより大きいファイルに対して、内部デーモンログのローテーションが機能しない。
6254121	<code>.htaccess</code> は対応するファイルがないリソースの保護に失敗する。
6185904	新しい NSS エラーコードが正しく処理されていない。

表 B-10 (続き) Web Server 6.1 SP5 において解決された問題

問題 ID	説明
62262885	<p>HTTPS から HTTP に切り替えると、新しいセッションが生成される。</p> <p>追加情報: Web アプリケーションの sun-web.xml で、cookie-properties の下の Web アプリケーションのセッション Cookie の isSecure 属性を true または false に設定します。デフォルト値は true です。</p> <p>次の例では、パラメータ値を false に設定して、Web アプリケーションの isSecure を false に設定しています。</p> <pre><session-config> <cookie-properties> <property name="isSecure" value="false"> </cookie-properties> </session-config></pre>
6222728	Microsoft Windows 2000 プラットフォーム上の Web Server 6.1 SP2/SP3 で SNMP サービスが失敗する。
6273472	Web Server 6.1 SP4 アンインストールスクリプトでエラーメッセージ「ファイルもディレクトリもありません。」が表示される。
6259257	一部の PDF ファイルで、検索エンジンによる索引化が失敗する。
6253489	JSP に入れ子の include が存在すると、ApplicationDispatcher の ClassCastException がスローされる。
6285847	<p>二重の Content-Length ヘッダーがある要求が拒否されない (HRS の脆弱性)。</p> <p>回避方法: magnus.conf に StrictHttpHeaders 指令を追加し、値を on に設定します。</p>
6275413	ホームページ SAF の設定が誤っていると、サーバーがクラッシュする。
6313832	<p>既存の 32 ビットプラグインを 64 ビットリリースで使用できない。64 ビット Web Server リリースを使用して 32 ビットプラグインを読み込もうとすると、以下のようなエラーメッセージが生成される。</p> <pre>Sun ONE Web Server 6.1SP5 (64-Bit) B10/28/2005 09:00 failure: CORE3170: Configuration initialization failed: Error running init function load-modules: dlopen of plugin.so failed (ld.so.1: webservd: fatal: plugin.so: wrong ELF class: ELFCLASS32)</pre> <p>Web Server 6.1 SP5 (64 ビット) リリースでは、sparcv9 のサポートが導入されます。</p>

B.11 6.1 SP4 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP4 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-11 Web Server 6.1 SP4 において解決された問題

問題 ID	説明
6021153	<p>必要なパッチ ID 112396-03 が存在しない。</p> <p>以前のリリースノートで必要と記載されているパッチ 112396-03 は正しくありません。正しいパッチ番号は 112396-02 です。</p> <p>Solaris ユーザーは、Oracle 推奨のパッチクラスタをインストールする必要があります。</p> <p><i>Solaris 8 (SPARC)</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 8 Update 7 ■ Oracle 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ <p><i>Solaris 9 (SPARC および x86)</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 9 Update 4 以降。 ■ Oracle 推奨の最新セキュリティーおよび推奨パッチクラスタ
6066252	AKI 拡張子付きのクライアントの証明書が原因で SEC_ERROR_UNKNOWN_ISSUER エラーが発生する。
6092498	クライアントの証明書にチェコ語の文字が含まれる場合、Web Server 6.1 は LDAP によるクライアントの証明書の検証に失敗する。
6171311	JDK 1.5 で Web Server を実行するとエラーが頻繁に発生する。
6171784	特定のエラーログ設定に関連する Web サーバーのパフォーマンスの問題。
4925875	韓国語の HTML コレクションについて、韓国語ではアスタリスクを使用した検索を行えない。
6171950	<p>プリコンパイルされた JSP ファイルが sun-web.xml 内の reload-interval パラメータの期待どおりに動作しない。</p> <p>回避方法: JSP ファイルがプリコンパイル済みであり、実行時にコンパイルする必要がないことを示すために、sun-web.xml 内の jsp-config でプロパティ use-precompiled を true に設定して使用します。</p> <p>sun-web.xml の例:</p> <pre><sun-web-app> <session-config> <session-manager> </session-config> <jsp-config> <property name="use-precompiled" value="true" > </jsp-config> </sun-web-app></pre>
5048940	SP1 からのアップグレード後に、管理 GUI 内の「Superuser Access Control」ページにアクセスできない。
6177544	プラグインの RPM インストール後に libpassthrough.so が存在しない。
6176231	Web Server 6.1 SP4 — NSS 3.9.3 ベータ版で、証明書を削除する管理 GUI (bin/https/admin/security) がコアダンプを生成する。
6173365	Solaris SPARC/x86 プラットフォーム対応の Web サーバーの同じビルド用に複数のパッケージインストーラがある。

表 B-11 (続き) Web Server 6.1 SP4 において解決された問題

問題 ID	説明
5039633	NSS を 3.9 シリーズに更新する。
5063134	J2SE の場所に対して Java Enterprise System シンボリックリンクが使用されない。
6067407	ACL_LDAPSessionFree() の使用の問題。
6173293	Web サーバーはサープレットのフィルタが設定されたときにコンテンツタイプを常に text/html に設定する。
6176264	Web Server 6.1 SP4 Solaris x86 が管理 GUI から SSL インスタンスを開始できない。
6180677	JES3 用の Web Server SP4 を JES2 用の Web Server SP2 上にアップグレードできない。
6066139	JDK1.5_beta2 リリースで Web サーバーを実行している間は、テストが失敗する。
6088595	JDK 1.5.0_beta2 で、クラスの作成中および編集集中に管理コンソールが例外をスローする。
4904913	I18N 検索:「?」のワイルドカードを使用して日本語で検索すると誤った結果が得られる。

B.12 6.1 SP3 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP3 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-12 Web Server 6.1 SP3 において解決された問題

問題 ID	説明
4798461	「転送ファイル」をオフに設定しても、GUI に設定が正しく反映されない。
4904896	I18N 検索: 検索管理 GUI 上の「Default Encoding」のエンコーディングリストのソート。
4905412	GUI がキーファイルデータベース内でユーザーの管理を許可しない。
4991338	Web サーバーの管理コンソールにすべてのタブが表示されない (Mozilla ブラウザで)。
5001819	Web Server 6.1: NOVA 検索エンジンがドキュメントのピックアップに失敗することがある。
5014693	Java フィルタ、HTTP 圧縮、および SHTML が連携に失敗する。
5021077	Directory Server を選択せずに「OK」ボタンをクリックすると、 <code>java.lang.NullPointerException</code> がスローされる。
5025617	Web サーバーの JNDI が、 <code>sun-web.xml</code> の <code>resource-env-ref</code> をマップする必要がある。
5042676	Client タグコード =302 で要求フローの問題が発生する。

表 B-12 (続き) Web Server 6.1 SP3 において解決された問題

問題 ID	説明
5056989	<p>セッション ID へのホスト名プレフィックス付加の有効化。</p> <p>Web アプリケーションにおけるセッション ID へのホスト名プレフィックス付加を有効にするには、Web アプリケーションの sun-web.xml で、manager-properties の下のプロパティ prefixSessionIDWithHostname の値を yes、true、または on のいずれかの値に設定します。</p> <p>以下の例では、パラメータの値を true に設定することによって、セッション ID へのホスト名プレフィックスの付加を Web アプリケーションに対して有効にしています。</p> <pre><session-config> <session-manager> <manager-properties> <property name="prefixSessionIDWithHostname" value="true"> </manager-properties> </session-manager> </session-config></pre>
5057749	Web Server 6.1 SP2: certmap.conf に定義されているプラグインが読み込まれない。
6041356	magnus.conf で AdminLanguage または DefaultLanguage、あるいはその両方を指定したときにメモリーリークが発生する。
6057426	<p>ロードバランサプラグイン (以前の Resonate プラグイン) loadbal.so が Solaris SPARC プラットフォーム上で機能しない。</p> <p>loadbal.so プラグインの場所は server-root/plugins/loadbal.so です。</p>
5065017	サーブレットセッションデータの問題が発生する。
5048051	RPM インストールの Linux 上でコレクションの作成に失敗する。
5029954	ConnQueueSize/RqThrottle が 0 のときにスタックサイズが無視される。
4898077	HttpServerAdmin および iWS コンソール間の動作に一貫性がない。
5013100	2500 と 02500 のような 2 つのポートが、server.xml 内に別個のポートとして追加される。
5046634	<p>HTTP ヘッダーおよびプラグインプログラムの 2 バイト文字。</p> <p>応答ヘッダーのエンコーディングを Web アプリケーションレベルで有効にするには、Web アプリケーションの sun-web.xml で、設定パラメータ use-responseCT-for-headers の値を yes、true、または on のいずれかに設定します。</p> <p>以下の例では、パラメータの値を true に設定することによって、Web アプリケーションの応答ヘッダーのエンコーディングを有効にしています。sun-web.xml の例：</p> <pre><sun-web-app> <parameter-encoding form-hint-field="j_encoding"> <property name="use-responseCT-for-headers" value="true" > <session-config> <session-manager> </session-config> <jsp-config> </sun-web-app></pre>

B.13 6.1 SP2 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP2 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-13 Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4536102	I18N: Solaris の Netscape で SNMP コミュニティー名が表示されない。
4536194	CGI サブシステムが NSPR ユーザーレッドからの呼び出しをブロックする。
4536739	管理 ACL およびスーパーユーザー AC: 「Allow only from host」オプションが機能しない。
4615933	CORE SHTML: .shtml ファイルに Content-encoding を設定できない。
4629796	フランス語のスレッドプール名が、JA-NT では文字化けしてしまう (Internet Explorer および Netscape)。
4651056	「.」で始まるファイルに対して、Web サーバーが 404 を返す。
4651206	新規の MIME タイプファイルを追加すると、追加したことを GUI から確認する方法がない。
4651207	「Document preference」Web ページで、エラーの応答に使用するファイルを用意する必要がある。
4652009	アクセスログファイルのカスタマイズが「View Access Log」タブの GUI 表示に反映されない。
4657465	Cookie のエンコーディングを無効にする必要がある。 デフォルトで Web Server の URL では、Cookie をクライアントに送信する前にエンコードします。Cookie をエンコードしないようにするには、以下のコードを sun-web.xml に追加します。 <pre><property name="encodeCookies" value="false"></pre> 上の例の場合、sun-web-app タグの下に直接行を挿入します。この行にどのようなタグも埋め込まないでください。
4664945	URL 転送の設定で内部エラー。
4666409	ErrorResponse CGI ファイルの名前の消去。
4676934	分散管理: Web Server 6.0 SP2 で、デフォルト ACI がオーバーライドされる。
4676946	仮想サーバーの設定形式を検証しない。
4676950	URL 転送の設定で http:// を削除すると内部エラーが発生する。
4682434	環境変数を取得するスクリプトがある CGI の実行に失敗する。
4682894	クラスタ管理 - ソースサーバーを選択すると、ターゲットサーバーが選択解除される。
4684775	非同期 DNS がデフォルトで無効になっている。
4707989	Web アプリケーション /JSP: JSP ファイルでスタート時に読み込む (load-on-startup) が機能しない。
4704385	クラスタ: リセット後すぐに「OK」をクリックすると、クラスタの変更時に NULL メッセージが表示される。
4705181	ユーザーとグループで、ユーザーを検査せず、CGI では空白文字が受け入れられる。
4705204	削除を選択しても、新規に追加した ACL ファイルが削除されない。
4706063	chroot およびディレクトリが正しく検査されない。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4711353	管理画面の「Global SNMP Master Trap Warning」に「Form Element Missing:manager?」と表示される。
4718914	証明書をインストールしなくても、任意のインスタンスサーバーでセキュリティーがオンになる。
4724503	GUI の「Edit listen socket」で IPv6 を有効にすると、サーバーが起動しない。
4727597	ポートが重複した新規サーバーを追加すると、管理 GUI の表示が乱れる。
4721021	SSL 対応サーバーで、絶対 URI にアクセスできない。
4727444	アクセスログで、間違ったデータがレポートされる。
4732877	urlhosts フィールドに複数のホスト名を使用できない。
4745314	VSCLASS の Docroot にある \$id 変数が Microsoft Windows では機能しない。
4749239	ACLI: ACL の処理が正しくない。
4753601	magnus.conf の MaxRqHeader 指令が、想定どおりに動作しない。
4754934	Web Server 6.0 の Vignette NSAPI プラグインが、HTTP 1.1 の使用時は正しく機能しない。
4761188	<p>LDAP: ACL の LDAP ダイナミックグループパフォーマンスの向上。</p> <p>パフォーマンス上の理由から、新たな LDAP 設定パラメータ <code>dyngroups fast</code> が SP2 で導入されました。このパラメータを使用すると、Web サーバーがグループメンバーシップに関して、ダイナミックグループ間で入れ子になった個別メンバーを省略することを表明します。</p> <p>たとえばユーザー <code>alpha</code> がグループ <code>A</code> に属していて、グループ <code>A</code> はグループ <code>B</code> の <code>memberURL</code> 定義 (ダイナミックグループ) によってグループ <code>B</code> のメンバーであるとします。また、ユーザーの ACL には、グループ <code>B</code> へのアクセスだけが付与されているとします。このとき、Web サーバーは <code>alpha</code> からのアクセスを拒否します。<code>alpha</code> はグループ <code>B</code> のメンバーでないと見なされているためです。</p> <p>入れ子のグループをサポートする場合は、LDAP 認証サービスで、この新規設定を定義しないでください。結果的に、パフォーマンスを向上することができなくなります。設定ディレクトリの例:</p> <pre>ldapregular ldap://localhost:389/o=TestCentral ldapregular: dyngroups fast</pre>
4763653	ドキュメント設定ページのフォーム要素に検査が必要。
4764307	Magnus.conf: パフォーマンス設定: 負の数値を受け付ける。
4765709	管理画面: 「Configure Directory Service」で <code>binddn/password</code> が検査されない。
4770294	Microsoft Windows 上の Web Server 6.1 で、アクセスログの行末に CR 文字を追加しない。
4786612	Web サーバーで、「:」(コロン)をホスト名または IP とポートの区切り文字として扱う箇所がある。「:」が IPv6 アドレスの一部に使用されるときに認識されるように、このコードを更新する必要がある。
4787310	SmallFileSpace の値が小さく設定されると、NSFC での占有開放に失敗する。
4788075	Web Server 6.0 SP5 で、magnus.conf の PATH 変数の設定が機能しない。
4800173	多くの仮想サーバーと連動する大きな ACL ファイルでのパフォーマンスの問題。
4808402	ネイティブオーセンティケーターのサポート。
4814097	GUI のプログラムグループで、プログラム項目として <code>none</code> を選択できない。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4822720	<p>キーブアライブサブシステムが動的に調整されない。</p> <p>キーブアライブサブシステムでは、パフォーマンスを最適化するための調整が必要です。Web Server 6.0 では、このサブシステムが高負荷にあわせて調整されていたため、同時に発生したキーブアライブ接続が多くないときは、パフォーマンスが良くありませんでした。Web Server 6.1 SP2 ではキーブアライブサブシステムが変更され、実際の負荷にあわせて動的に調整されるようになりました。</p>
4849907	実行権が設定されず、構成されていないのに、shtml が構文解析されてしまう。
4855807	AIX: watchdog による再起動後に、Web サーバーがハングアップする。
4858152	移行されたインスタンスの server.xml ファイルのアクセスログエントリが、無効なパスを示す。
4869527	SNMP: RH Linux 6.2/7.2/Adv Server 2.1 および Sun Linux 5 で、テストが失敗する。
4862498	新規のディレクトリサービス画面がインタフェースに接続されない。
4870613	Netscape Navigator 7 のフレームで「戻る」ボタンが動作しない。
4873766	要求がチャンクされてしまい、upload-file SAF が正しく機能しない。
4882838	<p>生成されたリダイレクトで、URL のプロトコルを指定できない。</p> <p>サーバーは、クライアントにリダイレクトを送信するときは、自己参照 URL を生成します。Web Server 6.1 SP1 以降では、サーバーの生成した自己参照 URL で使用されるスキーマの設定で、server.xml 内の LS 要素の servername 属性が使用されます。</p> <p>たとえば、インターネットと Web サーバーインスタンスの間に配置されている SSL オフローダーが http://www.example.com に対するトラフィックを SSL で復号化したあとポート 8080 の Web サーバーに引き渡している場合、server.xml には次のような LS 要素が含まれていることがあります。</p> <pre><LS remap="ls1" port="8080" security="disabled"...servername="https://www.example.com"></pre> <p>ここで servername の値の先頭が https:// となっているため、たとえ LS が SSL トラフィックを処理するように設定されていない場合でも、サーバーが URL を自己参照する際に https の手順を使用してしまいます。</p>
4889081	内部ログローテーションで、空のログが作成される。
4894033	分散管理 : 管理者 ACL の機能「Allow only from host/IP」がドキュメント単位でない。
4896881	Web サーバーの一部を展開するために untar を使用しているときに、所有者およびグループの情報が正しくない。
4897074	Linux のみ : コレクションを作成したとき、PDF ファイルのインデックスが作成されず、コレクションに追加されない。
4899105	「Edit Virtual Server」ページで接続値の強調表示が正しくない。
4905175	WebDAV ACL 設定が、新しい仮想サーバーに継承される。
4909378	「WebDAV 編集」ページの「Help」ボタンが、正しいヘルプページを指していない。
4903449	マルチプロセスモードで 1 スレッドしかない場合に、パフォーマンスが影響を受ける。
4905681	<p>AsyncDNS 設定が Web Server 6.1 SP1 において無視される。Web サーバーは、非同期 DNS 検索を実行しない。</p> <p>magnus.conf で AsyncDNS が on であっても、非同期 DNS は off のままです。</p>
4908631	実行していないサーバーを停止させようとする、エラーメッセージ状態が返される。
4907288	クラスタ管理ファイルの転送が Microsoft Windows で機能しない。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4909678	Web Server 6.1 ダイジェスト認証が、フラットファイルには機能しない。
4910266	Web Server 6.1: GUI でダイジェストファイルユーザーを作成すると、指数関数的にユーザーが増える。
4904088	移行の最後のページで、HTML の「<」および「>」文字をエンコードする必要がある。
4908986	JDBC: サブレットコード UploadServlet が SQL 例外で誤った処理を行う。
4904896	I18N 検索: 検索管理 GUI 上の「Default Encoding」のエンコーディングリストのソート。
4908010	新しく作成された仮想サーバーの検索コレクションを削除できない。
4908401	I18N: 検索結果のドキュメントのタイムスタンプがローカライズされていない。
4910222	バックスラッシュを含むドキュメントルートを持つコレクションを作成しようとする と、Microsoft Windows 上でエラーが発生する。 回避方法: この問題は、バックスラッシュが複数含まれているか、またはスラッシュと バックスラッシュが混在するドキュメントルートを指定した場合に発生します。スラッ シュを使用してください。
4911548	重複する検索コレクションを作成すると、サーバーが ConfigException を返す。
4911656	I18N: マルチバイト文字の検索で、「日付順に表示」リンクに移動できない。
4913909	i18n: ハングル文字のファイル名を使用したファイルを追加すると、読み取り権がない ためスキップされ、エラーになる。
4913228	jdbcRealm サンプルアプリケーションの Oracle スクリプトで、引用符がない。
4910869	NSFC の拡張が必要。 ReplaceFiles nsfc.conf 指令を追加します。 ReplaceFiles=true (デフォルト) の場合、既存のファイルキャッシュの動作が維持 されます。 ReplaceFiles=false の場合、ファイルがキャッシュされると、そのファイル キャッシュエントリは、別のファイル用に領域を空けるために破棄されなくなります。 ヒットリストのロックで、競合を避けることができるため、この設定はベンチマークシ ナリオで有用です。
4910272	新規サーバーの追加中に、ドキュメントルートでスラッシュの混在をサーバーが受け入 れてはいけない。
4912254	.env 内の set -o noclobber が原因で、Web サーバーのインストールが失敗す る。
4911070	Web Server 6.1: 「Add listen socket」の「protocol family」フィールドが、IPv6 アド レスに存在しない。
4911630	Magnus Editor のフィールドの多くが負の整数値を受け入れてしまうため検査を行わ ない。
4911550	追加ドキュメントでサーバーにアクセスしようすると、ServletException が発 生する。
4911633	ユーザーの「Change Password」が機能しない。
4913566	「URL Forwarding Editing」ページに矛盾がある。
4919473	管理 GUI から「Security Realm」プロパティを更新しても、server.xml に反映 されない。
4913289	「Edit Virtual Class」のヘルプで、VS クラスを削除するときの条件がすべて示されて いない。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4916331	キーブアライブ接続が軽負荷でもハングすることがある。
4925475	server.xml の createconsole 属性が無視される。
4925938	ユーザーが VS 管理 URL を誤って編集してしまうと、Null ポインタ例外が発生する。
4929848	パフォーマンス : Web サーバーが kstat を 1 秒に 1 回ポーリングする。
4926414	I18N-korean: 既存のドキュメントが 1 つ以上失われている場合に、コレクションのインデックスを再作成するとハングする。
4935797	certmap.conf ファイルの場所の表記が誤っている。
4930327	MOVE/COPY 要求で、destination ヘッダーが URL エンコードされない。
4933483	SIGCHLD シグナルが起動時にレポートされる。
4935582	AF_NCA で TCP_NODELAY を設定する必要はない。
4930642	ファイルの mime.types エントリがキャリッジリターンで終わっていない場合は、ソースが返される。
4930329	maxpropdepth のデフォルト値が間違っていて選択されている。
4932995	管理 GUI から Web アプリケーションを削除すると、先頭の「/」が取り除かれてしまう。
4935420	移行後の 6.1 インスタンスで、制限アクセスのリソースピッカーがエラーになる。
4944850	Web Server 4.1 から 6.1 への移行で、アドレス指令が正しく移行されない。
4946829	管理画面 : 移行後に新規仮想サーバーを作成すると \$user : が値を発見できない。
4941027	Web サーバーの管理インタフェースでのクロスサイトスクリプティング。
4948397	Web Server 6.1 SP1 の SNMP が機能しない。
4946187	分散管理 : 分散管理を有効にしたあと、ACL を「allow authenticated user」だけに設定しても、サーバーは管理者グループ内のほかのユーザーへのアクセスを許可する。
4947005	Solaris x86 プラットフォームで「Add server instance」が機能しない。
4940040	管理者の「Configuration File Reference」で、存在しない TYPE 要素を定義している。
4942750	検索の例が間違っている。
4943631	スレッドプール設定ファイルの説明が間違っている。
4941741	Solaris 8 上の Web Server 6.1 SP1 サーバーで、libCld.so が原因で起動に失敗する。
4945994	fc_net_write が単一システムコールにならない。
4940418	バイトコードの計測のためのサードパーティー製プロファイラのサポート。
4943329	IWSSessionManager が、Web Server 6.1 では期待通りに動作しない。
4947065	検索 Web アプリケーションで、最大でも 11 コレクションしか表示されない。
4947624	Microsoft Windows でインデックスの再作成をすると、意味のない警告メッセージが表示される。
4950552	特定の出力結果で、間違った番号が付けられる (11、21、31...)
4954789	ClassCastException で Web サーバーの配備に失敗する。
4956415	Web Server 6.1 検索 : meta タグの description を表示できるように要求される。
4950644	Linux で重複コレクションを作成すると、意味のない警告メッセージが表示される。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4951860	httpagt が NETSITE_ROOT 変数に依存する。
4957158	x86 ビルドの specweb99 を実行すると、fc_open が失敗する。
4952492	MOVE メソッドが、可能なときにファイルをリネームしない。
4958571	PR_NetAddrToString のパフォーマンスが想定以下である。
4951264	Java でトリガーされた再設定とサーバーのシャットダウン中に、Web サーバーがクラッシュする。
4958755	ServletContext.getContext(String) をルートコンテキストから呼び出すと、ほかのコンテキストを返さない。ルートコンテキストが返される。
4950653	QoS の vsclass 値に「Null」が表示される。
4951982	不正なクレデンシャルを使用して LDAP を設定すると、「Invalid error」メッセージが表示される。
4953147	管理者ユーザーが root で、インスタンスが root でない場合、cron ベースのログローテーションが失敗する。 回避方法: scheduler.conf ファイルで、管理サーバーユーザーと同じユーザーに変更してください。
4961864	rotate-callback の使用時に、Web サーバーがハングアップする。
4962059	setup.inf に管理者のパスワードがプレーンテキストで格納される。
4969637	send-error SAF に、軽微のコーディングエラー。
4961999	仮想サーバーの追加後、上部フレームのドロップダウンボックスに仮想サーバーが表示されない。
4962624	管理画面: 「Edit Listen socket」のプロトコルの値を検査しない。
4963483	ACL ファイルパスにスラッシュ (/) が含まれると、GUI が乱れる。
4968422	WebDAV 画面で、ブラウザに「invalid ACL file」と表示される。
4966497	「Average Queueing Delay」の「Perf Dump」データが正しくない。
4970955	Apache サンプル (\plugins\java\samples\webapps\simple) のクロスサイトセキュリティの問題。
4972573	Web Server 6.1 SP1 の、web-apps-sample サンプルアプリケーションで不正な動作。
4972587	国際化サンプルアプリケーションの index.html で指示が誤っている。
4976454	Web Server 6.1 に同梱のサンプル。
4970273	FastCGI ベータライブラリが RTM Web サーバーパッケージに含まれている。
4976953	AIX 6.0 SP6: 適切なグループアクセス権があるファイルで、GET 操作の禁止エラーが発生する。
4976490	ログメッセージが切り捨てられる。
4975675	サーバーのロード中は、動的再構成に失敗する。
4976910	エンタリが存在しないと、NSFC_GetEntryPrivateData() が NSFC_ExitCacheMonitor() を呼び出す。
4973079	GUI で、使用されなくなった無効なポートエンタリが保持され続け、「servername」フィールドの検査に失敗すると、そのエンタリの値が使用される。
4975788	Internet Explorer を使用して編集した classpath が壊れ、サーバーの JVM が起動できない。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4975798	Web 管理を使用して、classpath サフィックスにパスを追加できない。
4975782	外部 JNDI 参照を削除できない。
4970188	RPM がシステムの umask を特定できない。
4971298	Java ES で Web サーバーパッケージの pkgchk -n が失敗する。
4986761	Web Server 6.0 の移行に失敗する。
4989231	Linux プラットフォームでサーバーが起動に失敗する。ビルド中の JDK パスが間違っている。
4988104	「Edit Virtual Servers」 ページで、接続の値が正しく更新されない。
4986700	サブレットフィルタを使用すると、Last-modified および Etag が抑制される。
4991888	キーファイル設定で間違ったファイル名が格納される。
4992739	classpath サフィックスを変更すると、Web サーバーインスタンスを起動できない。
4995447	Web Server 6.1 SP2 (Red Hat Linux) で、管理 GUI にアクセスできず、ログイン後にエラーメッセージが表示される。
4995489	Solaris x86: 分散管理を有効にできない。
4991775	Cookie のサンプルサブレットでの Cookie 名検査。
5002905	分散管理が有効でなくても、「Superuser Access Control」を設定できない。
5012107	不正なプラグインを使用すると、POST 要求の本文が 2 回消費される。
4962659	検索条件が 100 文字に切り捨てられる。
4967580	検索で、SSL 対応インスタンスのリンクが間違っている。
4970181	Stellent フィルタを Linux および Solaris x86 ビルドに追加する必要がある。
4975327	nova 検索の indexMetatags が自動的に設定されない。
4975367	meta タグのインデックス作成で大文字小文字が区別されない。
4997149	*.* パターンでドキュメントを削除しても、excludeExtensions プロパティが設定されていると、削除されないファイルがある。
4997178	excludeExtensions が設定されていると、.sxx ファイルのインデックス作成中にサーバーが NULL ポインタ例外を返す。
4997697	検索結果ページで、ページ番号が正しく表示されない。
4844616	bswitch が正しく設定されていないため、クラッシュする。
4854698	誤った形式の要求によるプラグインクラッシュ。
4866965	ACL: 失敗した認証が、サーバーのエラーログファイルに 2 回記録される。
4880864	ACL: ACL でアクセスを拒否していると、Web サーバーが「404 Not found」エラーを返す。
4915326	WEBC: signedBy アクセス権を Jar ファイルに付与できない。
4918754	Web Server 6.1 で、8 ビット文字セットの HTTP URL GET パラメータを処理できない。
4924921	Microsoft Windows 2000 で JDK 1.3.1 を使用している場合、JVM の最大ヒープサイズを 800M バイトに設定できない。
4926336	JSP パラメータの値で % を使用すると、クエリー文字列が破損する。

表 B-13 (続き) Web Server 6.1 SP2 において解決された問題

問題 ID	説明
4927770	libjvm 内からの SIGABRT でサーバーが異常終了する。
4928358	JSP エラーが、「Not Found」エラーとして誤ってレポートされる。
4930374	sun-web.xml 内の class-loader 要素で extra-class-path 属性が想定どおりに動作しない。
4932893	動的再ロードが、Web アプリケーション記述子ファイル (web.xml など) には機能しない。
4939370	Web コンテナのスレッド名が一意ではない。
4934083	LDAP: LDAP 認証中にクラッシュする。
4934562	WEBC: スタンドアロンの JSP ファイルでは getRemoteUser() が動作しない。
4935669	WEBC: クライアントの証明書データが要求に含まれるとは限らない。
4935570	証明書データが利用できる場合でも存在しないことがある。
4932547	Tomcat AuthenticatorBase が 403 でなく 500 を返す。
4946762	出荷時構成のデフォルトレルムがネイティブでない。
4948123	Web Server 6.1 が、特定の状況で、クライアントのキーサイズを正しくレポートしない。
4949842	WEBC: コア認証を使用すると、isUserInRole() が一致しない。
4957829	LDAP: 基本認証で、UID にワイルドカード「*」を使用できる。
4960013	LDAP レルムを複数設定できない。
4968857	htconvert で .nsconfig のワイルドカードパターンを正しく変換しない。
4968882	6.1 形式の server.xml で htconvert が機能しない。
4960873	セッションが 2 つのスレッドで同時に期限切れになると NPE が発生する。
4973927	EPIPE シグナルが OutputStream.write() から IOException として捕捉されない。
4976277	LDAP プールに JDK 1.4.1 付属の JNDI 接続プールを使用する。
4983707	ログレベルを「Security」に変更すると、起動時に NullPointerException が発生する。
4981028	web.xml の「distributable」セマンティクスを Web コンテナが受け入れない。
4993468	getResourcePaths が「//」を含むパスを返す。
4996219	RedHat Linux Advance Server 3.0 で webserverd がメモリーリークする。
4997593	NSAPI の srvhdrs と HttpServletResponse ヘッダーの間の統合に問題がある。
4997756	LOCK-UNLOCK が正しく動作せず、UI はロック情報を正しく表示しない。
4997838	「Security」を on にすると、RedHat Linux AS 3.0 で Web サーバーが起動しない。
5003531	transport-guarantee=CONFIDENTIAL のときに、SSL 以外のポートから Web アプリケーションにアクセスすると 500 エラーが発生する。
5004542	ASN.1 構文解析バグ /brute forcer プログラムで Web サーバーがクラッシュすることがある。
5016494	NSS: 証明書が破損していると、DER_UTCTimeToTime でクラッシュする。

B.14 6.1 SP1 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 SP1 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-14 Web Server 6.1 SP1 において解決された問題

問題 ID	説明
4642650	<p>サーブレットまたは JSP コンテナに絶対 URL を追加できないようにするオプションが必要。</p> <p>修正の詳細: sun-web.xml に新しいプロパティが追加されました: relativeRedirectAllowed</p> <p>デフォルト値: false</p> <p>説明: true の場合、HttpServletResponse.sendRedirect() API を使用して Web アプリケーションが相対 URL をクライアントに送信できるようになります。つまり、コンテナが相対 URL を完全指定 URL に変換しないようにします。</p>
4793938	<p>Server Manager の GUI から遠隔ファイル操作を有効にすると、すべての遠隔ユーザーがサーバーの URI 領域にあるディレクトリのリストを取得できるようになる。</p>
4904201	<p>付属以外の JDK が存在するサーバーを追加したとき、javahome パスが誤って設定される。</p>
4911580	<p>新しいサーバーインスタンスを追加すると、問題が発生し、サーバーエラーメッセージが表示される場合がある。</p>
4928794	<p>PUT によって NULL のリソースを作成しようとするとサーバーが再起動する。</p>
4929913	<p>検索エンジンによって PDF ファイルの FTS 情報が抽出およびインデックス作成されない。</p> <p>修正の詳細: この修正は、Linux 以外のサポートされたすべてのプラットフォームに適用されます。</p> <p>Author、Subject、Keywords という meta タグには常にインデックスが作成されます。PDF ファイルの FTS_* 属性を変換したときに作成される meta タグも含め、任意の meta タグのインデックスを作成できるようにする機能が追加されました。server.xml において、新しい設定を次のように手動で構成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ server.xml の SEARCH セクションに、name="indexMetatags" と設定された PROPERTY を追加します。値をコンマで区切られた meta タグ名のリストにするようにしてください。Author、Subject、Keywords という meta タグは、この設定に関係なく常にインデックス作成されます。 ■ PDF およびその他のドキュメントを変換して作成される meta タグにインデックスを作成するには、この構成で、特定のドキュメントタイプのフィールド名ではなく、meta タグ名を使用する必要があります。たとえば、PDF ファイルの FTS_Title コンテンツにインデックスを作成するには、次のように "Title" を "indexMetatags" 設定のコンポーネントにする必要があります。 <pre><PROPERTY name="indexMetatags" value="Title"></pre> <p>注: 検索結果にカスタム meta タグ情報を表示する方法の詳細は、バグ ID 4956415 を参照してください。</p>
4933935	<p>Solaris 9 Release: パッケージベースのインストールで reconfig が機能しない。</p>
4945089	<p>SSL での ASN.1 解析問題</p> <p>Web サーバーで使用される SSL プロトコルの実装において識別された問題で、サービス拒否攻撃の対象になる可能性があります。この問題は Web Server 6.1 SP1 で修正されています。Web サーバーを使用して SSL バージョン 3 または TLS を使用するサイトをホストする場合は、このサービスパックのインストールを強くお勧めします。</p>
4950388	<p>reconfig コマンドが Microsoft Windows XP で機能しない。</p>

表 B-14 (続き) Web Server 6.1 SP1 において解決された問題

問題 ID	説明
4964069	Microsoft Windows プラットフォーム上で <code>commit.exe</code> ユーティリティーがクラッシュする。

B.15 6.1 において解決済みの問題

以下の表では、Web Server 6.1 において解決された問題を一覧表示します。

表 B-15 Web Server 6.1 において解決された問題

問題 ID	説明
4869693	Windows での Web サーバーのインストールで、Directory Server 5.x との共存問題のために SunONE Directory Server .dll ファイルが上書きされる。
4540254	ログファイルのローテーションによって UNIX 上のサーバーの再起動が必要となるべきではない。
4727146	ログが「connection reset」エントリで満たされている。
4786735	インストーラが、外部 JDK の使用時に適切な JDK CLASSPATH/LIBPATH を設定しない。
4792721	LDAP サーバーがオフラインのときに間違えたエラーメッセージ。
4799452	<code>sun.tools.javac.Main</code> が廃止されている。例外によって有効な JSP ファイルが停止する。
4801874	<code>ACL_LDAPSessionAllocate</code> が常に <code>LAS_EVAL_FAIL</code> を返す。
4811418	ダイジェスト認証がクラッシュする。
4819405	<code>digestauth</code> プラグインによる <code>slapd</code> プロセスのメモリーリーク。
4820513	<code>digestauth</code> プラグインコードがスレッドセーフでない。
4839875	<code>ClassCache</code> およびドキュメントルートとして <code>cachefs</code> または <code>nfs</code> を使用したときに、Web Server が新しい JSP を使用するとは限らない。
4842190	Web サーバーが、15 を超える言語の <code>Accept-Language</code> ヘッダーを受信するとクラッシュする。
4842574	誤った形式の要求によるサーバークラッシュ。
4842601	<code>Accept-Language</code> ヘッダーのセキュリティー問題。
4846832	CRL がデータベースを破壊する。
4848896	<code>digestauth</code> プラグインが、特定の種類の要求によりクラッシュする。
4849914	特定の種類の要求による <code>digestauth</code> プラグインでのメモリーリーク。
4855546	ログアナライザの脆弱性。
4858026	JSP: 大量のデータをポストしたとき、 <code>getParameter</code> でクラッシュする。
4867887	ユーザー ID に空白が含まれているユーザーの基本認証が失敗する。
4903319	コレクションを作成したとき、すべてのドキュメントのインデックスが作成されて、コレクションに追加されるとは限らない。

B.16 6.1 マニュアルにおいて解決済みの問題

次の表は、英語版の Web Server 6.1 SP6 以降のマニュアルにおいて解決された問題の一覧です。

注： 各国語版の Web Server 6.1 マニュアルでは解決されていません。

表 B-16 Web Server 6.1 マニュアルにおいて解決された問題

問題 ID	説明
6507454	現在のマニュアルでは、Cookie 情報を記録する方法について誤った指示が示されている。
6528670	『管理者ガイド』で、コマンド行から schedulerd 制御デーモンを再起動、起動、または停止する手順が記載されているべきである。
6528678	『リリースノート』と『インストールおよび移行ガイド』で、Web Server 6.1 SP7 のサポートプラットフォームについて異なる説明が記載されている。
6528682	2つのサーバーインスタンスが Windows の同じポートにバインドされている。
6543821	再起動または再構成時に、サーバーが古い待機ソケットを閉じていない。
6559753	逆プロキシプラグインのリリースノートには、「解決済みの問題」の節が含まれているべきである。
6570039	『管理者ガイド』には、次の訂正が必要である。「pk12util によるエクスポート」の節の -P オプションで、https-test-host のあとにハイフン (-) が含まれているべきである。
6367812	オンラインヘルプで、schedulerd を再起動する手順が記載されていない。
4957123	『管理者ガイド』で、検索クエリー演算子の説明が記載されていない。
6493741	「コマンド行から schedulerd を停止する方法」の手順が追加された。
6384436	逆プロキシプラグインで一部の重要なマニュアルが抜けている。
6401395	6.1 Passthrough/Fastcgi プラグイン起動メッセージが混乱を引き起こす。
6170766	Java ES のアップグレード手順で JES インストーラを使用しない。
6418693	netbuf_getbytes() についての説明が 6.1 NSAPI ガイドにない。
6472668	Web Server 6.1 Windows インストールはデフォルトで -Xrs JVM オプションを使用する必要がある。
6503463	Web Server 6.1 リリースノートに Sun 内部 URL が記載されている。
6378473	『Release Notes for Sun Java System Web Server 6.1 Add-Ons Reverse Proxy Plugin』で、validate-server-cert SAF のデフォルト値が誤っている。
6391505	『インストールおよび移行ガイド』で、設定ファイルの書き込み、ルートセキュリティ어의リスク、および Solaris net_privaddr 特権についての説明がない。
6359385	『Administrator's Configuration File Reference』で、64 ビットサーバーの magnus.conf 変数 MaxKeepAliveConnections の値の範囲について説明がない。
6358849	『Administrator's Configuration File Reference』で、nsfc.conf 設定ファイルの MaxOpenFiles 属性について説明がない。
5065188	『管理者ガイド』の「詳細検索」の節では、「検索」メニューの「通過検索」オプションについて誤って説明している。このメニューオプションは利用できません。
6173274	
6155266	『管理者ガイド』の設定ログレベルの説明が誤っている。

表 B-16 (続き) Web Server 6.1 マニュアルにおいて解決された問題

問題 ID	説明
6206074	『Administrator's Configuration File Reference』の ChildRestartCallback 指令のデフォルト値の説明が誤っている。
6170766	『インストールおよび移行ガイド』の「Sun ONE Web Server インストールの前に」の節で、Web サーバーの新しいバージョンへのアップグレード方法の説明が誤っている。
6170769	『Administrator's Configuration File Reference』の AdminLanguage 指令に関する情報が誤っている。
6173273	『管理者ガイド』の「MIME タイプの選択」の節の下に誤植がある。
6173133	『NSAPI Programmer's Guide』の NSAPI 関数リファレンスの例が誤っている。
6173272	『管理者ガイド』で、サポートされる Java のバージョンを「1.4.1_03」と誤って記述している。
5029460	『管理者ガイド』には、誤った certmap.conf の設定が記述されている。
4975161	『Administrator's Configuration File Reference』に、pool-init のオプションのパラメータ「block-size」の記述がない。
5002190	『管理者ガイド』には、htpasswd コマンドユーティリティーに関する情報が記述されていない。
5002192	『Administrator's Configuration File Reference』の loglevel 属性に関する情報が誤っている。
5038534	『Administrator's Configuration File Reference』の LogFlushInterval 指令のデフォルト値が間違っている。
4781137	『管理者ガイド』の次の情報が間違っている。 <ul style="list-style-type: none"> ■ libdigest-plugin.ldif のあるパスがガイドで定義されていません。 追加情報: libdigest-plugin.ldif は server-root/plugins/digest/libdigest-plugin.ldif にあります。 ■ ダイジェスト認証を処理するように Web サーバーを設定する (dbswitch.conf のデータベース定義の digestauth プロパティを設定する) 情報が記述されていますが、その実行手順は説明されていません。 ■ libdigest-plugin.so は libdigest-plugin.lib と誤って説明されています。 ■ iplanetReversiblePassword の説明がありません。
4823362	『管理者ガイド』は ACL に関する追加情報で更新する必要がある。
5046588	『インストールおよび移行ガイド』の Sun アクセラレータハードウェアのサポートされるバージョンの記述が誤っている。
5052605	『NSAPI Programmer's Guide』では、content-type を小文字にする必要があることが明確に指示されていない。
5062560	『インストールおよび移行ガイド』に start-on-boot オプションを無効にする方法が記述されていない。
6285234	『Administrator's Configuration File Reference』では、StrictHttpHeaders 指令のデフォルト値を on であると誤って説明している。
6067318	『Administrator's Configuration File Reference』の set-variable エラーパラメータの情報が不十分。
6230379	『Administrator's Configuration File Reference』の remove-file() SAF の記述が誤っている。
6208955	『NSAPI Programmer's Guide』で SERVER_SOFTWARE を MAGNUS_VERSION_STRING として誤って説明している。

表 B-16 (続き) Web Server 6.1 マニュアルにおいて解決された問題

問題 ID	説明
6320016	『Administrator's Configuration File Reference』では、Windows での listenQ のデフォルト値について明確に定義していない。
6354681	『Administrator's Configuration File Reference』で、DNS についての詳細な説明が必要。